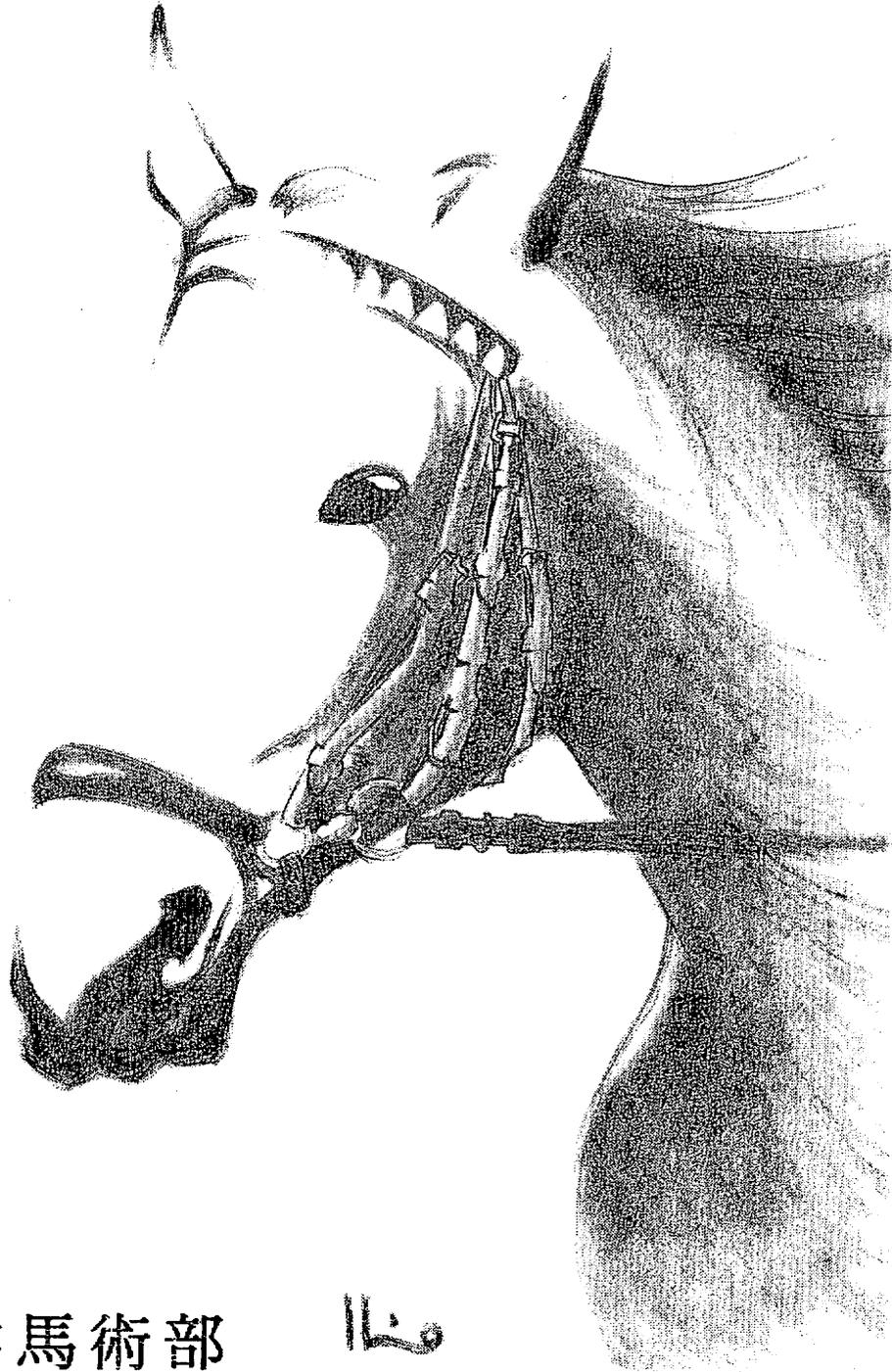


部報

平成11年度

No. 45



北海道大学馬術部

馬

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80



馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢茫茫たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり

北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のほまれあり



北日へ

目次

部長より

——新ミレニアムにおける北大馬術部活動——

前主将より

現在のクラブ状況

会計報告

戦績報告

OB寄稿

——胡馬北風——

——30年がたって——

——時計台25年——

馬匹紹介

卒部にあたって

部員紹介

写真

OB名簿

現役部員名簿

編集後記

新ミレニアムにおける北大馬術部活動

北大馬術部部长 市川瑞彦

いささか食傷気味かも知れないが、とにかくにも新しいミレニアムに入った。特別書く内容を現在持ち合わせていないので、昨年の内容（「21世紀の北大馬術部のハードとソフト」）の「続編」といったものでお許しいただきたい。昨年のこの欄では、新馬場の完成によりハード（施設）とソフト（活動内容）のうち、ソフト面での問題解決がポイントであることを述べた。このうち「学業と部活動の両立」の必要性については繰り返さないが、反面これがそんなに簡単でないこともまた事実である。従って、曲がりなりにも「両立」が達成されれば、一般の学生が持たない能力を獲得できたことになる。それではいったい、「両立」が達成により会得できたのはどのような能力であろうか。この点については、会社勤めの経験がないのでよくわからない。そのような貴重な披露を、投稿を通じてOB諸兄から頂ければ、部員諸君にとっても励みになりありがたいと思います。私の感じでは「不十分な条件・分断された時間の中で、物事を継続的に推進していく能力」、「短い立上りの時間で切り替えができる能力」などはそのうちに入るのではないかと思う。学生時代は自由であっても、社会にでたらこちらの都合で物事を決められない。このようなときに「両立」の努力が生きて、違いが出るのではないかと思う。

どんな厳しい練習や肉体労働に耐えることができる人でも、机に30分集中して座ってられないのはよく見ることである。高校時代は当たり前毎日学校へ行けた人でも、現在では思えば時間どおり辿り着けないのもまたよく見る。このことからなにげない毎日の行為も、継続という努力の結果であることを知るだろう。プロのスポーツ選手がオフシーズンに減退した肉体条件を回復するのにいかに多くの努力が必要かと同じように、一度失った習慣や精神的緊張を回復するには多くのエネルギーを要する。精神と肉体は密接不可分であることは昔からよく云われている。地質学の偉い先生から昔、「研究者のような精神労働は、須く精神労働にも強くあるべし。」ということであろう。しかしやっぱり、精神論だけではどうにもならないのも事実であろう。私はまず自分をそのような環境に置くことから始めるのがいいのではないかと思う。何かの本でよんだ記憶があるが、作家のチャールズ・ディケンズは毎朝規則正しくタイプライターの前に座ったそうである。文章が出てこないときには、出てくるまで同じキーをたたき続けて座ったそうである。つまり、環境設定と肉体的活動が精神的活動を刺激し変化をもたらすのである。練習が終わったら、授業があってもなくてもアパートには戻らず（そうすれば布団に戻ることもない）、（教室であれ、図書館であれ）学内で過ごし必要なことをすることである。始めはと図書館で寝てばかりいるかも知れないが、そのうちまわりに雰囲気慣れ文字に親しむようになることも期待できよう。次の日の練習に差し支えが出れば自然と早く寝るのを体が要求するようになるだろう。とにかく、「両立」のリズムを作ることであり（学生諸君の言葉で云えば、「両立モード」とでも云おうか）。

くどくど詳細にすぎるような言い方をしたのは、「現在馬術部を取り巻いている環境・条件がこれからも保証されていく」と考えるのは楽観的すぎるように思うからである。最近の社会の「リストラクチャリング」・「規制緩和」・「競争原理の導入」の流れから、国立大学の「独立行政法人化」の動きが出てきており、国立大学の将来も先が見えない状況になってきた。今年のうちには輪郭がはっきりしていくであろうが、予断は許さない。「独立行政法人」は行政組織の能率化を目指すために設定され、大学も「行政組織」のように5年の「中期目標」を設定してそれにより資金を獲得し、それがどのくらい達成されたのかの「評価」を受け、それにより次ぎの予算が決まっていくようなものであるらしい。予算に適用されるのは「企業会計原則」だそうで、どのくらいそのお金で利益・目的を達成できたかが唯一の尺度だそうである。ところで、それを馬術部の活動に適用させたらどうなるであろうか。さしづめ、課外活動などは「金がかかるがはっきりした成果を生まない」整理の対象として

槍玉にあがるかも知れない。「馬術部は札幌の中心部に広大な土地を占有していながら、どのような成果・利益をあげているか」と問われたら、どうするか。教育や課外活動の分野に、「企業原則」を持ち込むことが正しいとは思わないが、そうなったときに少なくとも「我々はこのような新しいミレニアムに必要な人材を育てようとしているし、現に育てている」、最も古くから人間と深い関係にある馬との付き合い、いわば「馬文化」の担い手として立派にやっている」と胸を張っていえるようになっていたいものである。

前主将より

川崎 洋史

今年は結果としては、全日学に4頭出場し、二走では団体を取ることができ、決して満足のいく成績とはいえないが、北大として全日学のスタートラインに立つところまでは行くことができました。後輩にはその過程をもっと大切にしていってほしいと思います。

僕達の学年は今までの北大馬術部のレベルからみると、技術レベルは低く、馬も3、4年前に比べるとベテランの馬は少なく、その中でやっていくのは決して楽ではありませんでした。でも、そのような環境の中でいろいろありながらも一つの代がまとまっていたことが何よりも力になったと思います。全員の力は、一人一人の技術よりも偉大でした。一人一人の技術が高くてみんなの力がなければそれは発揮されないけれども、みんなの力は一人一人の技術の足りないところをカバーしてくれます。

このことを頭のすみにおいておけば、もっと馬一頭一頭を大切にするだろうし、一人一人の技術（馬に乗ることだけが技術ではない）ももっと高まると思います。現役のみんなは自分が馬術部の中で何ができるか（馬に乗ることが全てではなく）もっと良く考えて、積極的に行動して下さい。馬術部がもっと成長していくことを期待しています。

最後になりましたが、市川先生を始めとするOBの方々、また乗馬関係の方々にはいろいろお世話になり、ありがとうございました。これからもよろしく願います。

現在のクラブ状況

<主将>

森田 崇之

昨年の北日学では、毎年道内競技会で使用しているノーザンホースパークで開催されるという地の利もあって、二回走行では、全日学では4頭で団体をくむことができた。

しかし、総合では、地の利にかかわらず、ステイブルにおいてミスが多発し、1頭のみ権利獲得という結果に終わってしまった。前々から感じていたことではあるが、このごろの北大馬術部の傾向として、総合馬術に対する研究が非常におろそかになっている。いくら二走で全日団体出場できても、総合で団体の権利をとれなければ、馬術部の”総合力”が確固たる基盤を1年間で築くことができたとは言えないのではないだろうか。

”総合力”のない馬術部に将来は無い。絶大な”総合力”が確立できたとき、総合馬術での全日団体出場が可能となり、その延長線上で二走で団体としての権利獲得を達成することができるのではないのだろうか。

感じることは多々あるのだが、これ以上だらだら書いても締まりが無いので、簡潔に今自分が頭に描いているこれからのクラブの方針を述べていく。

一馬匹一

北日学出場馬匹

二走	北蘭 (18)	総合	北凌 (14)
	北牙 (15)		北蒼 (9)
	北旋風 (11)		北旋風 (11)
	北祥 (12)		北祥 (12)
			北鈴 (9)

新馬

北神威 (10)
北誓 (8)
北陽 (5)
カッティングダーク (8)

練習馬

メロンパワー (14)

これから見ても分かるように、現在、二走、総合共に出場させることができるのは北旋風1頭のみである。北祥が去年は体の故障により出場できなかったこともあるが、それでも過去と比較してみるとあきらかに少ない。総合のみ出場の馬匹は能力的に十分二走へ持つていくことも可能であるが、やはり人の技術力、知識力の不足がこのような状態へと導いている。この一年、どれだけ総合力をあげていくかが、将来の重要な足掛かりになるだろう。

次に、練習馬についてだが、練習馬が必要か否かについて様々な意見があるが、下級生が多い現状を考慮したとき、1) 戦力馬の負担を減らす、2) 競技会の結果に左右されない、といった理由でやはり、練習馬の存在が必要であると考え。ただ、練習馬といっても効果的に使っていかなければまったく意味がない。常に上級生で話し合い、場合に応じて練習方法を変えていくことも重要なことである。

新馬調教に関しては現在、北誓、北陽、カッティングダークの3頭をOBの方をお願いして見ていただいている。しかし新馬といってもいつかは現役が乗れるようにならなければ意味のないものである。そのような観点から、現役上級生とOBとの様々な意見の交わり合いが重要なものであると考え、上級生は自馬の練習が終了した後はOBが乗られている新馬の観察、または騎乗させてもらうことで、新馬が今どの段階にいるのかを現役が認知できるように体制を考えた。

—練習—

いま現在、3年目6人、2年目3人、1年目14人の総勢23人で部を運営している。9月に新しい代を迎えるにあたり目標を掲げた“北日学で二走総合団体優勝、全日学団体入賞”。これを達成するためにはどのような練習が最も効果的なのか。簡略ではあるが、これから自分たちがすべきと考える練習をここに述べていく。

①部班による指導方針の一貫性

毎日の練習始めに下級生による部班を行う。ただし部班指導の下積みとして重要なことは、指導する側の上級生が下級生の指導に関して、ミーティングで綿密に話し合い、指導の方向性を統一させることである。また号令も情性にならないように下級生の成長をみて、徐々に難しい課目を導入していくことが大切である。こうすることで、下級生のレベルも全体的に底上げすることができる。

②馬の乗り替わり

チーフとして馬を持つもの同士がお互いの馬に乗り替わり、また常時騎乗を観察することで各馬の状態や調教も進行度合いを常に把握できるようにする。これによりお互いの偏りがない騎乗に対する考えを解消することができる。

—最後に—

このように書体では偉そうなことばかり書きましたが、実際のところ完全にはこの体制を確立することができていないのが現状である。我らが成し遂げるためにも、この1年、自分に甘えを許さず試行錯誤を繰り返して、将来の部のために多くの財産を残せるように精一杯頑張ります。

<副将>

井口 大地

現在の部員からは下級生を中心に「北日で優勝し、全日へ行くんだ。」という勝利へのハングリー精神を感じることはできない。皆自分が楽しく乗れば良い、という雰囲気でも活動しており、馬の扱いや当番はおざなりである。何か全て自分本位で、部全体で馬を見ていて、部全体で勝ちに行く、という意識の欠落している者があまりにも多い。もっと部員全員の意識向上を目指し、一丸で北日、全日に向かうという雰囲気を作らねばならない。そしてそれにあわないと思う者はやめるのみである。部活でやっている以上勝利を目指さない者に存在理由は無い。

<主務>

畔柳 宏司

9月から主務として活動していますが、いまだ分からなかったり中途半端な部分ばかりで四苦八苦というかんじです。大会運営などの目に見える仕事がないオフシーズンにもう一度主務の仕事、馬術部全体を見つめ直すことをこの場で報告に変えさせていただきます。

この部報は'99年度中に出るものと確信しているので、現役部員への主務からの要望・提言も含めたいと思います。普段から言っていることもあり、くどいとは思いますが現役にはしっかりと読んで考えてもらいたいと思います。

1. 施設関係、学生部との関係について

'99年3月から新厩舎へ移転し、様々な人から「広くなったね」「こんな立派なのみたこと無いよ」といわれるほどの設備のなか、活動させてもらっています。新しく使いはじめたばかり、というときにありがちな細かい不都合もありますが、それらは市川部長、学生部

の方々をはじめ多くの人たちのご協力、ご援助の中ですこしずつ改善しています。数多い学校の公認団体の中でこれだけのお世話になっていることを大変ありがたく感じます。

ただ、現役の普段の生活はとても感謝の気持ちがかもっているとは思えない。中には様々な援助を受けながら「当然だ」と思っている人もいるのではないだろうか。常にそういう意識を持つことは、施設を大切に使い、他の人に気持ち良く思われる接し方をする第一歩だと思う。

2. アルバイトについて

アルバイトに関しては多くの方のご好意により様々なものを紹介していただいています。ただ私たちは学生でもあるので、ある程度上級生の中で話し合っただけで制限していかなければならないとは感じます。とは言っても、この部活でこの規模で活動していくためにはバイトは不可欠であり、今の方針でやっている以上、全部員が協力すべきだと思います。つらいことはたしかですがこれだけの馬を養って、これだけの騎時を確保するには当然のことでしょう。

3. 競技会運営について

道場連の会議に出席した際、やはり参加団体の方は運営に不十分さを感じているようです。最大の責任は主務にあります。各部員ももっと意識を高く持って行って欲しい。大会運営においてお金をもらい、競技に関して些細なことですがメリットもあると感じ、それに応じた仕事をして欲しい。

4. 外部との関係について

現在、残念ながら全ての部員がお世話になっている方々に対し、失礼の無い態度で応えているようには思えない。電話の対応、挨拶など基本的な事柄から、それぞれが問題意識を持って改善して欲しい。また、たとえ形を整えても本心から感謝していないとバケの皮は剥がれると身を持って感じている。周りの方々にどれだけお世話になっているかゆっくり考えるべきだ。

5. 各役職の仕事について

それぞれの役職全てがあって現在のよな部の運営ができています。それぞれが有意義なのだから、誇りを持って、自信を持って仕事をして欲しい。妨げになる人がいれば相手が上級性でもなんの遠慮もいらぬ。ただ、その時に相手の意見も聞き、冷静に判断することは必要です。

様々な点で勝手なことを述べているようだが、実際足りない部分は多いと思う。だれが足りないか、と言われれば「僕です」となってしまうのは恥ずかしい限りだが、主務として、事務的、対外的な仕事をする以上、部全体に意識をさせていくべきだと思う。一人一人が意識していけばより良くなるのではないのでしょうか。

現役以外の皆様、このようなことを読まれて「あいつがねえ」と思われる方も多いと思いますが、以上のような気持ちで頑張っていきますので、今後ともよろしく願いいたします。

<馬匹>

長田 拓郎

新しい馬場に移り、馬たちもようやく周りの環境に慣れ始めたといった今日この頃です。昨年春に北獅を疝痛で亡くしてしまい、同じ過ちを繰り返してしまい、“部員の意識の足りなさ”、それだけのために命が犠牲になっていることを思うと、自分の立場としてできるかぎりのことをしなければと感じます。それは疝痛に限ったことではなく、放牧中のケガであったり、騎乗量、内容による跛行、持病のある馬の管理など、様々です。自分から部員全体

にもっとわからせなくては、ケガや病気はなくせないと思います。疝痛経験のある馬、さく癖のある馬、跛行のでやすい馬、腰の悪い馬、脚元の不安を抱える馬など、主戦馬のほとんどが問題を抱えています。そんな中で、どれだけ万全の状況で北日、さらには全日を目指していけるかは、部員、チーフの意識の問題であり、それを監督し、実践させるのが自分の役目と思っています。

今年こそは、絶対に、馬が辛い思いをしないように。必ず。

<会計>

浜田 浩一

今年は、例年に比べて、朝日新聞社のアルバイトが減ってしまったが、その他のバイトを増やしたので、結果的に、アルバイト収入は増えている。しかし、部員にとって負担の大きい平日のバイトは、極力増やさなくとも済むようにしていきたい。しかしながら、来年は、北日が福島で行われることもあり、また、全日のことも考えると、輸送費がかなり増えることが予想される。部員の、部の会計に対する意識を高め、無駄を省くと同時に、是非とも、OBの方々からの、御理解と御支援を賜りたいと思います。

<後援会>

竹本 和彰

より多くのOBと交流を深めるために、馬術部のOBは全国各地に散らばっているのでその全てと交流することは難しいのですが、戦績報告などの連絡を細かく送り、現在の馬術部に興味を持ってもらえるようにしています。

また2年前、平成6年卒の倉本さんが北海道大学馬術部後援会ホームページ (<http://www4.big.or.jp/~nono/hokudai/>) を開設して下さいました。インターネットをされている方はそこから情報を見ることができます。まだ、現役からはお知らせほどした書き込みがないので、これからはホームページを通して交流ができるようにどんどん書き込んでいきたいと思っています。

昨年、全日学に4頭連れてい行くことができたため東京では大勢の方に迎えていただきました。なんとといっても戦績を残すことが馬術部に興味を持ってもらえる最も良い方法だと感じました。

最後にOB会からの寄付で防風林を植えることになり、また防風ネットも設置されることになっています。この場を借りてお礼をいたしたいと思います。

<飼料>

小野 元也

現在、馬に与えている主な飼料は燕麦、ふすま、ハイキューブ、塩、リンカルの5種類です。回は1日3回、朝、昼、夕に与えていて、運動している馬のおよその量は、1日あたり燕麦2ℓ、ふすま1ℓ、ハイキューブ3ℓ（1ℓあたり約400gの物）、塩とリンカルをそれぞれ大さじ2杯程度です。原則として全馬の飼はお湯でふやかして与えています。また、乾草を1頭につき1回あたり1.8kg程度、朝、昼、夕、夜の4回与えています。

馬場移転後、それまで主に校内で刈っていた青草の確保が困難になりました。そのため、ハイキューブと乾草の給与量を増やしました。その増加分をいかにして賄うかというのが1つの大きな問題だったのですが、今年度、OBで現在明治飼料に勤めていらっしゃる中野さんが無償で飼料タンクを設置して下さいたためハイキューブ、燕麦の割安での大量購入が可能になりました。また乾草についても、中野さんの紹介で割安の乾草を購入したり、長岡さんからも例年より多量にいただいたりと、多くの方の御支援で金銭的にはなんとか移転前と

同程度の支出で賄えています。

飼料の仕事は、部外の方との関係が重要なのは明らかです。北大の農場の方々にも相変わらず乾草や敷藁をいただいていますし、ボロの回収についても様々な方にお世話になっています。そういう方々に感謝の気持ちを忘れず、そして馬が毎日口にし、横たわる飼料の質に細心の注意と、改善していく心構えを常に持ってやっていきたいと思えます。OB、関係者の方々には、これからも一更の御指導、御支援のほどよろしくお願ひします。

YAMAWA

お酒と米のことなら

(株) 今 鷺 田 商 店

札幌市豊平区美園 3 条 4 丁目 (バス停前)

電 話 (代) 821-6248

☎ フリーダイヤル 0120-431045

よいさけとよいこめ

会計報告 1999年1月～12月

< 収 入 >

部	費	706,000
ア	モ	445,500
	セ	
ル	J R A 開催	2,164,480
	J R A 乗馬厩	358,680
イ	朝日新聞社	266,526
	そ の 他	946,130
ト	半 澤 杯	52,068
	馬 場 大	61,432
	公 認	505,354
	秋季自馬大	977,856
	そ の 他	27,000
学馬連補助		2,082,000
寄 付		210,000
そ の 他		109,257
計		8,912,283

< 支 出 >

銅	糧	1,720,470
装	蹄	1,126,500
業	品	605,917
馬具・備品		121,809
作	業	45,147
電	話	255,965
輸	送	1,359,668
車	輜	941,784
文	化	76,308
後 援 会		303,663
事	務	107,106
雑	費	41,027
登	録	350,100
そ の 他		145,090
計		7,200,554

1999年 12月31日

会計 浜田 浩一

みゆきちゃん定食 380円并ぶり 北20条西6丁目 TEL756-3410
みゆきちゃん仕出し弁当 280円弁当 北21条西7丁目 TEL716-2120

戦績

◇対東北大学定期戦

出場選手 杉山 川辺 鷹箸
優勝 東北大学

◇半沢杯

馬場馬術第2課目

順位	選手	乗馬	得点率
2	山本	北凌	52.2
3	川崎	北誓	50.2
4	小野	北鈴	44.8

複合競技

順位	選手	乗馬	総減点
5	尾崎	北旋風	87.00
6	栗原	北蒼	89.50
7	濱田	北凌	96.40
棄権	長田	北鈴	

中障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点
4	大崎	北蘭	4
6	尾崎	北旋風	8
棄権	川崎	北桜冠	

小障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点
5	金丸	北牙	0.75
15	川崎	北桜冠	10
16	森田	北旋風	12
17	栗原	北蒼	12
19	森田	北祥	12.25

新人新馬障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点
11	長田	北蒼	4
12	須山	北蒼	5.75
17	長田	北鈴	8
26	川崎	北神威	24.25
open	佐藤忍	北神威	8

◇北海道馬場馬術大会 第2課目競技(A班)

順位	選手	乗馬	得点率
----	----	----	-----

第2課目競技(B班)	2	竹本	北凌	55.8
	9	畔柳	北牙	50.3
	13	尾崎	北誓	43.8
	14	須山	北鈴	43.4
	1	川崎	北蒼	51.5
	5	森田	北誓	49.0
	6	川辺	北牙	47.7
	7	川崎	北神威	47.4
8	沖原	北旋風	46.4	

第3課目競技(B班)			
順位	選手	乗馬	得点率
8	尾崎	北旋風	46.5

一般ツースター総合馬術競技

順位	選手	乗馬	得点率
3	大崎	北凌	49.7
6	川崎	北蒼	47.3
8	尾崎	北旋風	45.8
9	栗原	北蒼	45.5
10	川崎	北神威	44.4
13	長田	北鈴	41.5

◇三大学定期戦

出場選手	杉山	山本	鷹管
優勝	酪農学園大学		
2位	北海道大学		
3位	帯広畜産大学		

◇春季北海道自馬馬術大会

馬場馬術第2課目

順位	選手	乗馬	得点率
2	森田	北陽	52.1
5	金丸	北陽	47.7
6	尾崎	北誓	46.9
10	小野	北凌	44.4

馬場馬術第3課目(A班)

順位	選手	乗馬	得点率
15	寺田	北蘭	40.8

一般ツースター総合馬術競技(A班)

順位	選手	乗馬	得点率
1	大崎	北凌	54.4
9	長田	北鈴	45.9

	1 0	森田	北桜冠	3 9 . 5
一般ツースター総合馬術競技 (B班)	2	川崎	北蒼	5 3 . 2
	6	尾崎	北旋風	4 8 . 4

L B 障害飛越競技 (初心者一般)

順位	選手	乗馬	減点	J . O
3	井口	北旋風	0	0

L B 障害飛越競技 (新馬)

順位	選手	乗馬	減点	J . O
1	川崎	北蒼	0	4

L A 障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点	J . O
9	森田	北祥	0	経路 E
2 0	金丸	北牙	7 . 7 5	

M C 障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点	J . O
2 4	尾崎	北旋風	8	
2 7	大崎	北蘭	1 1 . 7 5	
棄権	金丸	北牙		

◇北海道馬術大会

馬場馬術第2課目 (A班)

順位	選手	乗馬	得点率
4	山本	北蒼	5 3 . 7
5	金丸	北陽	5 3 . 3
6	尾崎	北誓	5 2 . 9
7	浜田	北凌	4 9 . 7

馬場馬術第2課目 (B班)

順位	選手	乗馬	得点率
6	長田	北鈴	4 8 . 7
7	畔柳	北陽	4 8 . 3
8	杉山	北誓	4 6 . 4
棄権	竹本	北陽	

L A 障害飛越競技 (一般)

順位	選手	乗馬	減点	J . O
1 7	大崎	北凌	0	8
2 7	川崎	ムーンライト	4	
2 8	川崎	北蒼	4	
3 1	長田	北鈴	8	
open	金丸	北牙	0	1 1
棄権	森田	北祥		

内国産馬 M C 競技

順位	選手	乗馬	減点	J . O
1 1	大崎	北蘭	4	

	1 7	森田	北祥	7. 2 5	
	1 9	尾崎	北旋風	8	
内国産馬 S & H C 競技	順位	選手	乗馬	時間	
	9	尾崎	北旋風	7 4. 6 2	
	3 反 E	金丸	北牙		
L 級 S & H 競技 (一般)	順位	選手	乗馬	時間	
	1 8	川崎	ムーンライト	7 6. 0 0	
	open	金丸	北牙	1 1 9. 1 8	
◇北日本学生馬術選手権					
男子予選	順位	選手	乗馬		
	2	川崎	キプロス	3 1 9. 5	
	3	大崎	キプロス	3 1 6	
男子準決勝	2	川崎	ル・グランシュバル	3 6 0	
男子決勝	失格	川崎	オリエントラン		
女子予選	順位	選手	乗馬		
	2	栗原	シンクライト	3 6 7. 5	
	3	寺田	ル・グランシュバル	3 5 0	
女子準決勝	4	栗原	ヨシムネ	3 5 5	
◇北日本学生馬術大会					
学生賞典障害飛越競技	順位	選手	乗馬	減点	J. O
	2	大崎	北蘭	0	4
	7	森田	北祥	1 2	
	8	金丸	北牙	1 4. 5	
	1 2	尾崎	北旋風	1 6	
学生賞典総合馬術競技	順位	選手	乗馬	総減点	
	4	尾崎	北旋風	1 5 2	
	1 2	川崎	北蒼	2 3 0	
	1 3	長田	北鈴	2 3 1	
	1 5	大崎	北凌	2 8 6	
新人新馬障害飛越競技	順位	選手	乗馬	減点	J. O

5	小野	北旋風	0	0
経路 E	杉山	北凌		
open	寺田	北凌	0	4
open	徳永	北旋風	0	棄権

◇北海道体育大会 兼 国民体育大会馬術大会

馬場馬術競技第2課目

順位	選手	乗馬	得点率
8	浜田	北陽	51.0
11	畔柳	北陽	49.9
12	森田	ムーンライト	48.7
16	川辺	北桜冠	44.0

馬場馬術競技第3課目

順位	選手	乗馬	得点率
15	栗原	ムーンライト	48.7

総合馬術競技

順位	選手	乗馬	総原点
4	川崎	北蒼	145
6	大崎	北凌	301
open	長田	北鈴	133(耐久のみ)

L A 障害飛越競技(一般)

順位	選手	乗馬	減点
23	長田	北桜冠	27.5
落馬 E	井口	北桜冠	

◇秋季北海道自馬馬術大会

馬場馬術競技第2課目(A班)

順位	選手	乗馬	得点率
14	金丸	北陽	47.9
15	浜田	北陽	47.8

馬場馬術競技第2課目(B班)

16	杉山	北鈴	40.5
----	----	----	------

馬場馬術競技第3課目(A班)

順位	選手	乗馬	得点率
11	大崎	北凌	44.9

L B 障害飛越(初心者一般)

順位	選手	乗馬	減点
15	杉山	北鈴	18.75

L A 障害飛越(一般)

	順位	選手	乗馬	減点	J. O
	3	森田	北蒼	0	0
	1 3	井口	北桜冠	4	
	2 3	長田	北凌	1 2	

障害飛越MC

	順位	選手	乗馬	減点
	1 3	尾崎	北旋風	4
	3 反 E	森田	北祥	
	3 反 E	金丸	北牙	
	棄権	大崎	北蘭	

L級S & H競技(一般)

	順位	選手	乗馬	時間
	open	森田	北祥	6 1 . 2 4
	open	金丸	北牙	8 3 . 7 0

一般S & H C競技

	順位	選手	乗馬	時間
	4	大崎	北蘭	5 5 . 7 0
	1 0	尾崎	北旋風	8 8 . 2 9
	棄権	金丸	北牙	

◇山下杯◇

L級障害飛越競技

	順位	選手	乗馬	減点	J. O
		長田	北凌	0	3
		山本	北旋風	0	3
		森田	北蒼	3	

MC障害飛越競技

井口	北桜冠	7
----	-----	---

新人新馬障害飛越競技

中川	北蒼	0
井口	北桜冠	9
畔柳	北桜冠	3 反 E
浜田	北桜冠	3 反 E

◇全日本学生馬術大会

学生賞典障害飛越競技

	順位	選手	乗馬	減点
	3 9	大崎	北蘭	3 1
	4 2	尾崎	北旋風	3 5
	3 反 E	金丸	北牙	
	3 反 E	森田	北祥	

学生賞典総合馬術競技

順位	選手	乗馬	総減点
44	尾崎	北旋風	628

◇国立十大定期戦

出場選手 杉山 小野
結果 3位

馬と畑の有機的関係の確立を！

野菜の新しい生産と流通を模索する。

上田農園

上田正徳



〒003-0876 札幌市白石区東米里2072-1

TEL 011-874-3272

FAX 011-873-2307

CELLULAR 090-3-891-4988

ファームレストラン 

胡馬北風

昭和35年度主将 大場 善明

昭和37年3月。淡雪の残るポプラ並木横の馬場で卒部最後の鞍を納め、その手綱の温もりを握りしめ、何時の日か「北帰行」もあるのかと、桑園駅を通過する夜行列車（当時の急行列車は小樽回り）の窓から遠ざかる北大キャンパスの灯りを追った日を思い出します。

昨年末、市川端彦部長と電話で話していたら、『ところで、2000年は北大馬術部創立70周年になる』とのこと。我々にも大変なミレニアムの年だ。あの時、部員みんなでまとめた記念誌『馬術部三十年史』から、いつのまにか、もう40年の年輪を重ねている。卒部後、就職先でひたすら「働き蜂」「高度経済成長の戦士」の猛特訓の洗礼を受け、馬に縁のない馬耳東風の40年が寂しくも思う。毎年、部員の皆さんのご苦勞の跡が滲む『部報』が届く度に、私には青春を取り戻す清風のように感じています。そして札幌で生まれ育った私に「越鳥南枝 胡馬北風」の感慨を呼び覚ます郷愁も棄て難い。

わが部活の思い出を、一つ、二つ……。

I 『馬術部三十年史のころ』

先にもふれたが、私の卒部の年、昭和37年1月1日。刊行まで長年かかった『馬術部三十年史』完成しました。確かに慣れぬ編集作業に部員全員が苦勞もした。今、同書の編集後記を読み返してみると、吉田亨（S36卒）小生（S37卒）志水一允（S38卒）三浦清一郎（S39卒）諸氏の言い訳（？）が残されている。当初の『三十年史』刊行予算が8万円。そして12万、14万円と、いかに大ざっぱな予算計画だったことか。刊行スケジュールが二年、三年と延びると、また新入部員の数だけ印刷部数が増えるのも事実だった……。資金ショートに広告取り、先輩OBの会社に奉加帳、OBへカンパ要請、名画（？）鑑賞会、競馬場のバイトなど血と汗と涙の貯金も、いつも春先になると愛しき白馬の燕麦代に目減りしていた。

印刷、製本は札幌市内の印刷会社数社から見積を取り、一番安い「札幌印刷所」に。場所は、苗穂の行けども行けども続く玉葱畑を突き抜けて、札幌刑務所の塀の中。受刑者の更正施設、印刷訓練所だった。三浦清一郎君と10メートル先も見えない吹雪の中を、原稿の風呂敷包みを胸に、はじめて聳え立つコンクリートと大きな鉄の扉をくぐると、中は意外と暖かかった。怖そうなおじさん達が、面会差し入れ客と同じように手荷物の厳重チェック。今はどうか知らないが、当時1月になると北大入試の問題をここで印刷していたという。数学の問題で、『Σ』の活字がここには無く、アルファベットの『M』を横に倒して印刷した話など、おじさん達が優しく話してくれた。思ったよりも心温まる「塀の中」だった。

出来上がった『三十年史』を持って学内、札幌の先輩OB、広告協賛社などにお礼。東京へは登山用のキスリングザックに80冊ほど詰め込み、それを背負って列車、青函連絡船を乗り継ぎ、東京まで担いだ思い出があります（そのころは宅急便なんてもちろん無かった）。詰め込み過ぎて、あまりの重さに土浦あたりでキスリングの肩のベルトがブッチ切れて往生したことも。早速、東京OB会の東園会長に『三十年史』をお届けするため、志水一允君の友人から借り上げたライトバンで東園会長のお勧め先、皇居・東宮に向かおうとして、車窓からくわえタバコで二重橋に差し掛かると、皇居警察の衛視に囲まれ、「ここは二重橋と言って、君達学生の来るところではない」と油を絞られた。まだ安保闘争の余韻が残るそんな時代でした。あの当時を思うと準備に大変とは思いますが、是非、皆さんで新しい『馬術部七十年史』を期待しております。

II 馬たちのことなど

私たちの頃の繁養自馬は、昭和29年の北海道国体に準備された馬たちが主力で7～8頭。人間よりも馬の経験の方が遥かに勝り、とても頭の良い老練な馬ばかりの印象が深い。全国大会で上位の勲章をぶらさげた優秀な自馬も4～5頭はいたと思う。それぞれの馬に思い出は尽きないが、詳しくは『馬術部三十年史』に玉沢一晴君（S38卒）が名解説している。しかし、この馬だけは桁外れのチョー思い出を残してくれた。その名は『朝清号』。

前号の『部報』に瀧澤南海雄君も書いているように、皆十人十色の思い出があるはずだ。一年生でも、鞍数の少ない女子部員にでも平気で1m30cmの障害を跳び、飛越の心構えを教えてくれた。馬体は象さんのように大きい北大の名物馬。父方は北大日高牧場の、それは見事なたてがみを持った「芳嶺号」というブルトン種。血筋は立派だったのだろうけど、どういうわけか「生年月日一不詳」で、日高から札幌の第一農場に使役馬として街に出てきた自然児・やんちゃ坊主。脱柵、放馬の名手で、第一農場のプロでも使役馬の調教に失敗。お手上げで馬術部の飼育管理になったと聞く。馬場の部班運動では、いつも一番ピリケツについてドタドタ、バサバサ。そしてキョロキョロ大きな目で背中の人間の顔色を伺い、隙あらば馬場の入り口近くでサッと厩舎に飛び込む機敏さ。厩舎への脱走に失敗すると、わざと厩舎の板壁に自分の身体をこすりつけて、背中の人間を揺さぶり落とそうとする特技をだれから教わったものか（これで振り落とされた先人がいたのかも）。いくら馬栓棒をしっかり上までつぎ足しても、爽やかに一人外をトコトコ闊歩。こっそり厩舎に身を潜め観察していると、一番下の馬栓棒に首を伸ばし、エイッとばかり肩で馬栓棒を厩舎ごと持ち上げる怪力の持ち主。障害飛越の大会で、人を乗せたまま横木の下に首を突込み、くぐり抜ける荒技、障害にもそんな逆転の発想くらいは朝飯前の平気な知恵者だった。

第一農場の馬場時代、ポプラ並木、アカシア並木を突ききって牧草地の先、原生林の中に使役馬の放牧場があり、この畔道もよく覚えていた。北大で全日本女子馬術大会を開いた際、青山学院の女子選手がコーチ監督と待機中、いきなり朝清号が選手・コーチもろとも原始林めがけて消えてしまった。あわてて同期の吉田亨君と追い掛けたが、放牧地の鉄条網で、ぶたぶた血だらけになった同コーチを発見。かたや朝清号は、競技前のちょっとしたウォームアップに放牧場を一周してきた、涼しい顔をしていた。

さらに私の一年生の冬、恵庭の自衛隊演習場を舞台に、アルバイトで大映映画「敵中横断三百里」のロケに駆り出された（『三十年史』にその時の写真も掲載している）。コザック兵のロケ衣装に鉄砲を背負い、ロケ場所に向かおうと朝清号の轡に足をかけた途端に暴走。当時の生田勝一主将の「死んでも手綱を放すな」の怖い声に、このまま札幌の厩舎まで引きづられるのかと観念。ロケ見学の沿道の観客を蹴散らし、雪道を200mくらいポブスレーのように振り回され、あきらめて何食わぬ顔で立ち止まる可愛い朝清号。とにかくいくつもの武勇伝を残し、我々よりも数段と知能の優れた名物馬だった。

Ⅲ 新たなる時代に向けて

私たちは、第一農場のポプラ並木時代を『馬術部三十年史』にまとめた。さらに新しい馬場を完成させた皆さんに、是非、第二農場・北18条時代を『馬術部七十年史』としてまとめて欲しいと思う。北大、新世紀への馬場、厩舎、部室が完成しても、計画時には予期できなかった問題点も残されてはいるでしょう。一つ一つを丹念に克服していきたいと思う。

「禅の心」に薫習（くんじゅう）というのがあるそうです。香屋なら香のにおい、酒屋なら酒のにおいが自然と身体に染み込んでいくとえです。人間も与えられた環境の中で、知らず知らずに作られていく。どのような環境の中に自分を置かかが一番大切なこと。お互いの薫習を大事にしたいと思います。私の40年前を振り返り、あなた方の選んだ「馬術部」という薫習も良い香りを代々に残しています。自信をもって前に進んでください。

また、昨年の全日本学生自馬大会を久しぶりに観戦し、市川部長とも話したことだが、馬術部の4年間で上級生は上級生なりに、下級生は下級生なりに自分の今やらなければならないこと、選択の道に苦しむことが沢山あると思う。英国で起こったと言われる「スポーツ」

いこと、選択の道に苦しむことが沢山あると思う。英国で起こったと言われる「スポーツ」という観念は、貴族や紳士たちが Nobles Oblige（高貴なる義務）を実践することを前提に始まったという。スポーツは「徳と勇気」が目的であって、肉体を鍛えるのは「手段」にすぎないと。したがってスポーツは「自分自身のため」でも「勝つため」でもないという。お互いが協力し、切磋琢磨する義務を果たせた人のみが、組織の代表・頂点として技を競い、かつ、勝敗の場に立てるのだと思う。私は、馬も人も知力あるもの同士が、心を一つに、お互いのあらゆる義務を果たしただけの、正直な結果が生まれる素晴らしいスポーツだと思います。・・・これも老馬の独り言かもしれませんが。

北海道大学馬術部のご発展を祈る

馬具専門店



REITSPORT
RUHM

株式会社 ライトスポーツ・ルウム

大阪市西区南堀江4丁目-2-3

。〒550-0015 Tel 06-6533-0777

Fax06-6533-0778

30年の時がたって・・・

41年度卒 高野 文彰

30年前の夏・・・1965年

”暑い！”したたり落ちる汗が目に入って痛い。周りの音がいつさい聞こえない中で、蹄の音と北瓢号の息使いだけが聞こえる。あの角をまわり最終障害のバンケットを越えれば6kmの野外騎乗のゴールだ。国体出場の権利もだいぶ近づいてきた。最後の追い込みとばかり拍車とムチを入れるが、愛馬北瓢号はガソリンの切れた車のように前に進まなくなった。声をかけても前に出ない、スローモーションを見るようにバンケットが目前に迫る。前足だけがかかると北瓢号は前に出ない。ついに力尽きて止まる。ああ!!これで国体もだめか。目の前がスーと暗くなってゆく。

想えば恩田さんが調教を始め、その後、野田さんが調教を続け、新潟国体標準障害で6位となり、北嶺号、北楡号が老齢化した中で唯一のエース馬として、自分達の代の成績はこの北瓢号にかかっていたのに!!一緒にこの馬に乗って共に試合にのぞむはずだった近藤喜十郎君が大会を前にして腰を痛め出場できず、”俺の分もたのむぞ!”と病院のベッドの上でいていたのが目に浮かぶ。

呼吸を整えなおしてもう一度、最終障害に向けなおした。北瓢はいあがるようにバンケットを越え、息もたえだえにゴールを切る。ああ!!これで4年間の競技生活も終わりだ。遠くに畜大の厩舎がかすんで見える・・・

こうして私の青春と馬術部の生活は心のかたすみとずっしりと重い鉛のかたまりを残したまま終わった。そしてその想いは年がたっても消えるようで消えず、正体不明のまま、ずっとくすぶっていたように思う。

そして30年がたって・・・1995年

北海道代表、高野文彰選手、乗馬”アンナクイーン号”御入場ください。頬に平手打ちをくれて気合を入れ、競技場に入る。もう一度経路を頭の中で確認し、スタートラインに向かう。アンナクイーン号のやわらかな馬体は伸び、やがてよく前に出、調子の良さがうかがえる。『高野選手52歳、おそらくは本福島国体で最年長と思われます。』”余計なお世話だ!”とつぶやきながらスタートラインを切る。あとは馬の吐く息と蹄の音だけの大好きな世界へと入る。第1障害を難なく通過、第2障害もすぎ第3障害へ。リバプールの水面を見たためか、アンナの跳びがちよつとつまる。落下”ちいつ、しまった”。気をとりなおして次へと向かう。多くの馬が失敗している第9障害のトリプルもアンナクイーンは持ち前の伸びやかな跳びで通過し経路の後半へと向かう。

19障害21飛越を終えて見ると、2落下でゴール7位の成績だった。成年2部とはいえ、20代、30代の選手と一緒に表彰台に上るのはいい気分だった。30年間心のどこかにいつもきづっていた痛みの半分がようやく薄らぎ、あとの半分は自馬テキーラ号と共に国体へ出場することでおろしたいと思った。

テキーラ号との出会い・・・1990年

新しい生き方を求めて長いこと住み慣れた東京をあとに北海道の十勝へ会社ごと移転してきたのが10年前のことである。北海道へ移って間もない頃、十勝の友人佐藤さんから電話があった。『高野さん馬好きだったよね、馬あげるっていう人がいるけど、いるかい?』。

犬とか猫なら聞いたことがあるけど馬とは、さすが北海道だなあ!!と感心。とりあえず馬を見に行くことにした。道営競馬を走り終わった7才のアングロラブ、しかしいざ会ってみると、30年も馬と離れていた悲しさ、いい馬かどうか確信が持てない。でもオーナーの話聞いてみると、私がもらわなければ肉屋へゆく運命と聞き、これも何かの縁と思い、もらっていくこととする。

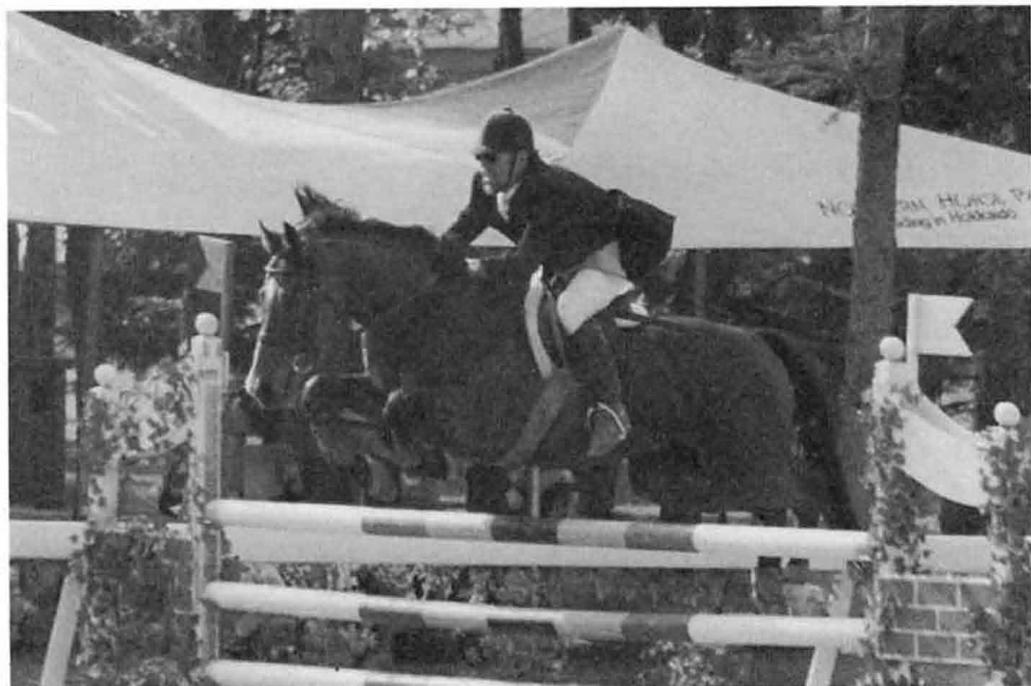
さて、手にいれた馬をどこにあずけようか考え、帯広畜産大学馬術部OBの川久保さん（八木正巳さん、38年主将と同期）と、我々と同期だった久保田学氏が中心で運営する十勝拍友会乗馬クラブの門をたたいたところ、気持ちよく受け入れていただくこととなった。この十勝拍友会乗馬クラブは馬術部がそのまま社会人のクラブとなったような乗馬クラブで、朝の練習は朝の5時集合、月3回の飼付け当番、年10日の作業といったとてもユニークなクラブで、入った時は、この年でまた学生時代みたいなのはいやだなあ、というのが正直な感想だった。まあ気楽に、土、日だけのウィークエンドライダーでのんびりとやっていこうとして数か月が過ぎた。

しかし、春になって春の馬場開きの競技大会が行われた。L級障害飛越競技にベテランでよく跳ぶ馬ウインディ号で出場するはめになった。ノドはカラカラ、心臓はドキドキ、無我夢中でスタートを切る。そしてふと気がついてみると障害1個跳ぶごとに、青春の1ページが1枚ずつよみがえり、ゴールをした時はもうすっかり学生時代の気分に戻っていた。

さて、新馬テキーラは少しずつよくなってきたが、悲しいかな、乗り手は25年ものブランクで、障害を跳ぶのが怖くて怖くて、身体のどこかに、こんなはずではなかったという記憶はあるが、馬についていけない。とにかく、低い障害を丹念に跳ぶことから始めていく。少しずつ、少しずつ、丁寧に、しかし結果的にはこれが新馬の調教には効果的で、テキーラは筋力をつけ、メキメキと安定感のある跳び方をするようになってきた。そして、1年で新人新馬（100cm）、3年でL級（110cm）5年でMC級（120cm）をクリアし、いまではMB（130cm）を満点か1落でゴールできるようになってきた。キレのよい跳びは天性のもので100頭に1頭の名馬で、そのめぐりあいが私の人生を変えた、その幸運に感謝している。

このテキーラ号で国体の権利を取ったのが1昨年の神奈川国体で、さあ、いよいよ学生時代に残した心の重い記憶をこれで完全に取り戻せると、自信たっぷりと大会へと乗り込んだ。しかし、結果は成年男子ダービー競技の乾壕障害で拒止、そして落馬失権となる。学生時代に残したものをまた拾いそこね、又大きな目標を持つことになった。テキーラは次の試合で高校生の馬淵直央人君が騎乗して少年トップスコアで2位となり、全国デビューをはたした。

今は馬狂いの病いもこうじて、自宅に厩舎と馬場を設け、2頭の馬の世話をしながら今年の国体へ向けて冬の十勝でトレーニングを続けています。今回は、2頭目の馬、カルバドス号の話も含めて、いろいろご報告できればと思っています。



OBの高野さんとテキーラ号、北海道選手権・優勝、ノーザンホースパークにて

ご家族づれから
大宴会まで



郷土料理・お座敷中華

ろまい
もの屋

登御殿会館

さっぽろ・北4西4
予約電話 261-7851

時計台 25年

51年度卒 山川 雅裕

皆様——特に51年度卒のみんな——お元気ですか。

昨年末、部報係の大久保君から原稿依頼の電話がありました。その声といたら、もし断わったら自殺でもしかねない調子だったもので止むなく筆をとります。

3年ほど前から太田さんの後を継いで蹄鉄をうっています。そこで本来なら馬たちの蹄の状態についての報告などすべきなのかもしれませんが。でも専門的な話をしてもボロを出すだけだから、これは止めにし、馬場のわきに立つしかレンガの時計台について話をすることにしました。

あの時計台は、私たち昭和51年度卒の6名（桑田、横沢、佐野、石川姉、水井姉）が卒部記念にと製作したものであります・・・エヘン。これについては、数年前のコンパの席で1度話をしたことがあります。馬場の移転が確定したときで、てっきり取り壊される思い、「こんな訳で、最後を見届けたいから壊される時には呼んでください」と頼んでおきました。ところがどっこい、あくまで現状維持での移転という方針から、時計台も移転ということになりました。クレーンにぶらさげられて運ばれ、新たに三角帽子までいただいて、新しい馬場のわきに納まることになりました。安住の地を得た時計台の製作の経緯を文に残し、未来永劫に語り継いでもらうことにしましょうか。

時計台の製作準備での1番の功労者は主務をしていた佐野君です。持ち前の人の良さどずうずうしさを発揮して、あちこち交渉し、知らぬ間にすべての資材を調達していました。時に、当時100年記念館を建築中だった〇〇組の現場責任者に、直接頼み込んだものか、学生部に紹介してもらったのか、設計、製造方法、鉄筋の加工などすべて好意でもらったのには大助かりでした。

製作は私たち6名でしました。鉄筋を組み、基礎のコンクリートをうつまでは順調でした。ところが、台の芯になるコンクリートを入れる際、形枠とコンパネを釘で打っただけの簡単なもので作り、しかも4mの高さから一度に流し込んだものですから、見る間に枠がふくれ、崩壊寸前になりました。慌てて馬場の箱障害を積み上げて崩壊をまぬがれたものの、思いだしても冷汗ものです。

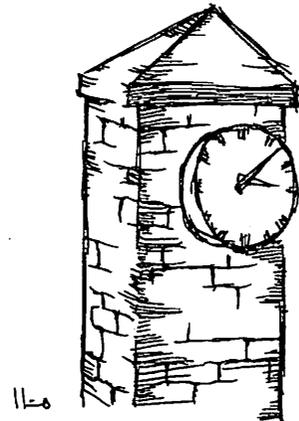
仕上げのレンガは一日で積み上げました。初めのうちは丁寧に積んでいたのですが、日も暮れて、暗い照明の下での作業のころには、見てくれなどどうでも良くなり、ただただ積み終えることに専念していました。時計台を近くで見れば、後半の作りの悪さがわかると思います。

このいいかげんさには1つ言い訳があります。当時から18条通りの拡張の計画がありました。そして拡張即ち馬場の削減ということだったので私たちは当然反対。「この時計台を計画阻止への最後のトリデにしよう！」なんて話していました。といっても、所詮国の仕事、そのうち一数年のうちには壊されてしまうにちがいないと皆考え疑いませんでした。拡張の話が20数年に及び、馬場の移転で決着するなんて誰も想像できなかったのです。そしてあの時計台を移動できるなんて。もし想像できていたならもう少し丁寧にレンガを積んでいたことでしょう。

来年は卒部25年だっさ。我々も歳をとるはずだね。思い出の時計台のもとに集まって酒でも飲もうか。

ところで時計台の代金くらいは自腹を切ったのだっつけ・・・記憶にないのだけれど。

・・・まあそういうことにしておこう。



◇北牙（ファストバロン）◇



調教報告

金丸 鉄平

はじめに

最後の1年をバロンに乗っていくときに、いろんな場面でいろんな人たちから言われた言葉が常に自分の中のキーワードになっていました。そういう言葉をもとにこれからの現役にとって少しでも役に立つよう1年間の報告を書いて見るつもりですが、その言葉の中にはすでに過去の部報で述べられていることもいくつかあります。現役を終えた直後の人間が書いているという点で過去の調教報告は難しい馬術書よりもよっぽど役に立つと思います。まだよんでいない人は、この機会に過去の部報もぜひ読んでみてください。

フラットワークについて

常に心がけていたことは、馬をしっかりと前に出しながらいりリズムで運動すること。下級の頃からいろいろとお世話になっていた中田兄には、常々「リズムとバランスだ」と言われてきました。馬を動かすときの基本としてスカイ牧場の土井さんに言われたことは「自分の行かせたい方向に馬を持ってくる」ということ。中田兄曰く、「扶助とは自分の力を伝えるのではなくあくまで自分の意志を伝えるにすぎない」くて馬がそれを理解して動くのには人は付いていかなければならない。

そして亀山兄の調教報告にある「日頃からどれだけ本気のフラットワークができるか」ということ。自分では精一杯やっているつもりでも、まわりが十分それを認められるくらい自分に厳しくなれる人はなかなかいません。常に誰かに見られているという意識があるのとなので、練習の中身も大きく違ってきます。変に余力を残しながら馬に乗っていたら馬に対して失礼です。ただ、心に余裕がなくなりすぎるのも良くなく、「馬の気持ちを汲み取ってやれるだけの心と、馬の気持ちに答えてやれるだけの技術を磨かなければいけない」とは谷地姉の調教報告にもあることです。

具体的に自分の場合、半沢杯の時期に右手前に変な感触を抱き、それに対して思い切った対処ができなかった甘さがシーズン中ずっと尾を引くことになりました。シーズン後半、どつぽにはまって中田兄と一緒にやったことは調馬索とバランシングを使った丁寧な半減却の練習で、これは代替わりの時期に角堂兄に言われたことと同じことでした。調馬索とキャバレッティは継続が大切だと鶴見兄も書いています。

代替わりの時期や全日の時期に感じた熱い思いをずっと持ち続けることは難しいことです、少なくともそれが長い冬の寒さと共に冷めきってしまわぬよう、忙しいシーズンの中で進むべき方向を誤らぬよう、日々の反復練習の中にも工夫を凝らした活気ある練習を目指してください。

障害について

普段の練習では速歩も駆歩もジムナスティックがほとんどで、全日前には2.7×3×6のコンビネーションを多くやっていました。ここでも気を付けたのは一定のリズムと障害通過後の半減却でした。これはもちろん試合の時も同じです。リズムについて、L級のレベルとMCのレベルで馬にとって十分なリズムやペースというのは少なからず変わっていくと思います。その差は馬によって様々だと思いますが、そのボルテージの違いを拳や脚に伝わる感覚としてどれだけつかめられるかが大切だと思います。

試合に関しては、下級生の頃から教えられるはずの基本をどれだけか体が覚えていられるかだと思います。障害に対して馬をまっすぐ向ける、馬が飛ぶまで待つ、飛越中及び着地で邪魔しない、回転でしっかり外方にためてくる、そういった基本を走行中の瞬間瞬間にどれだけ実践できるか、障害のレベルがあがり馬のボルテージが上がるほど対処を求められる瞬間が短くなります。そういう状態での適切な判断力と実行力を養うには何が必要でしょうか。

おわりに

馬術部でよくきく言葉に「気合」というものがあります。気合には大きく分けて2つあり、普段の馬術部生活や練習に必要な気合とは「根性」、厳しい作業や練習に耐えること。そして試合に必要な気合とは「勇気」、勇気とは即ち恐怖を克服すること。自分はずっと自分がバロンに勇気を与えなければと思っていた。でも最後の最後に、バロンは不安で押しつぶされそうな心から勇気を振り絞り自分は勇気を与えられていることに気付いた。結果としてそれに答えてやれなかったことを申し訳なく思うと同時に、いろんな物を与えてくれたバロンに対して感謝の気持ちで一杯です。

最後に4年間で市川先生をはじめたくさんの人、馬たちにお世話になりました。ありがとうございました。この恩に報いることは、自分が授かった知識や技術をできるだけ多く次ぎに伝えていくことだと思っているので、もうしばらく馬術部と関わっていくつもりです。あいまいな表現が多く分かりにくかったところはお許してください。

南路屋

nanjiya

okonomiyaki

札幌市北区北19条西3丁目
平澤ハイツ1F
☎011-737-7747

～南へつづく路の屋～

酒・米・タバコ・食料品

宝賀商店

札幌市北区北24条西13丁目

TEL011-716-8086

◇北凌（ハギノレジェンド）◇



調教報告

大崎 智弘

半澤杯後、下級生から乗り替わり、北日まで3か月しかありませんでした。北日まで時間がなく、することといえば、内方の手綱でコントロールされていたのを外方の手綱で行い（外方にのせる）、しっかりとした内方姿勢をとらせること、馬体が収縮しきっていたのを前後に柔軟にすることでした。馬場的には良くなつたのですが、技術面ばかり求め過ぎ、自分は乗りこなせるが下級生が乗るには難しい馬になってしまい、シーズン中に下級生を障害の試合に出せませんでした。また、二頭乗りで毎日時間がなく焦って乗っていたせいか、馬のメンタル面でフォローできず、ちょっとでも雰囲気が変わると馬が焦ってしまいました。これからの課題は、馬の年齢の割にまだ落ち着いていないところがあるので、精神的に鍛えていく必要があると思います。OBの方々に言われてやったことといえば巻乗りでした。昔のエース馬のチーフの方は、よく巻乗りをされていたそうです。たしかに巻乗りをすることでしっかりと脚とはみ受けができ、内方の後肢もしっかり踏み込んでくる。

障害に関しては、以前と違って馬が障害に対してカーッとなくなってしまっていて、障害前に脚でしっかりと抑えてやらないといけず、飛越後のリカバリーものびてしまった馬体を脚でつめてやらないといけなかったが、そこまでやる時間はなかった。

きよた

やきとり 居酒屋

ボリューム満点！コンパ150名様までOK！

札幌市北区北17条西5丁目北向き

当店誕生日、ご利用の方には
カラー写真・粗品をさしあげます。

TEL 011-747-7000

◇北旋風（トルネードダンサー）◇



調教報告

尾崎 哲浩

北旋風に乗った約1年間、何も調教らしいものはやっていませんが、この馬がどんな馬だったかということ、ここで書いておきたいと思います。

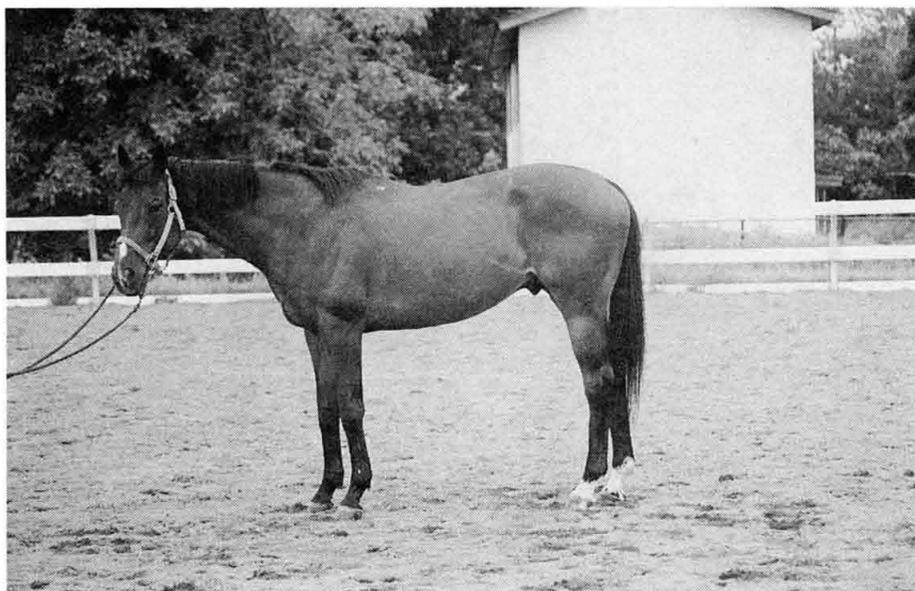
トルネードの最大の弱点は馬場にありました。絶望的ともいえるほど口、体が固かったのですが、総合を目指す以上、避けては通れないので、悪戦苦闘しながら馬場の改善に努めてきました。結果的には、本番の調教審査で成果を上げることができませんでしたが、おそらく障害においての落下の減少に大きい成果を上げることができたのではないかと思います。

基本は、常歩にありました。常歩の運動で、うまく馬とコンタクトしながら、停止、前肢旋回、斜め横足、肩うち、後肢旋回などをやることによって、馬の騎手に対する集中力が増し、口や体全体がほぐれていきました。そういう感覚を大事にしながら運動すると、速歩、駈歩に移行した後も普段の練習においては、満足のいくものでした。なかなか、実戦では上手くいきませんが・・・。

障害に関しては、止まることはないのです。ほとんど心配していませんでした。ただ、大きく馬を動かしてやることと、騎手があまりごちゃごちゃ考え過ぎないで、馬に任せて飛ばせることに注意して乗っていました。この馬にとって、騎手との信頼関係がしっかりしたものであれば、障害はそれほど怖くないようです。

これからも、馬場には泣かされると思いますが、トルも周りがいっほどバカではありません。少しずつ覚えていくと思います。また、その欠点を補えるだけの十分な飛越能力を持っています。近い将来全日本で活躍できるようになることを期待しています。

◇北祥（シンコウスピリット）◇



調教報告

森田 崇之

<はじめに>

僕が北祥のチーフを任されることになったのは、12月に入ってもう馬場に雪が積りはじめた頃であった。代替わりとなる9月以前までは川崎兄がチーフであり、代替わり以後も兄が引き続き一年間騎乗する予定であったのだが、秋季自馬大以後この馬の“持病”ともいえる右腰の筋肉痛による跛行が今まで以上に悪化し、約3か月ものあいだ馬休をさせていたことにより、また福島の乗馬クラブから入厩した新馬（新馬といってもMCクラスを何度も完走してきた馬）に川崎兄がチーフとなることが決定したことにより、僕がこの馬のチーフを任されることになった。

この頃の北祥に対する僕の印象としては、まず第一に、ひどく臆病な馬であるということであった。下級生の頃外乗で騎乗した時、校内に入るための少し狭い入口があるのだが、他馬が何も臆することなく入っていくのに対し、この馬はひどい興奮状態であって、入口へ近づこうともしないことがあった。これはほんの一例であって、とにかく、珍しいものに対し、まず臭いをかがせることで安心させようとする段階以前に、その行為にさえ反抗し、逃げてしまうというのが彼の性格であった。第2に彼はとても体の故障が多いということであった。昨シーズンを例にとると、シーズン中は1か月ごとに競技会がNHP（ノーザンホースパーク）で開催されるのだが、その競技会に出場する度に筋肉疲労からくる跛行が随時見られることが多かった。このような経緯を踏まえて、北祥との北日学までの調教報告を書かせていただく。

突然の乗り替わりということで、12月、1月の2か月間は、川崎兄に、これまで北祥が行ってきた調教方針を踏まえて練習方法を見ていただいた。まず調馬索を行うことによって十分に馬体の筋肉をほぐすこと心がけた。シーズン中、幾度となく右腰の筋肉疲労からくる跛行を目のあたりにしてきた僕にとって運動前に調馬索をかけるのは絶対、必要条件であると考えた。

また、彼は馬体的に背中がくっきりくぼんだ体形であり背中中の筋肉が正しく発達しきれていない（これは普段のフラットワークにおいて、背をはった状態で自分が運動していた結果からくるものであるが）部分も考慮して、最初は左右手前を道具なしで5分ずつ、その後シ

シャンポンを装着して後肢をやや踏み込ませてロンジグすることを心がけた。とは言え、この頃の自分は非常に知識不足で、ただがむしゃらに追い鞭を使用することで馬のリズムを完全に無視して、馬に踏み込ませていた。そうではなく、やはりシャンポンを装着したロンジグにおいて一番重要なことは、一本調子でただ回すのではなく、馬によいリズムで後肢を活発に動かさせることであると思う。これにより背と腰は弾発を生むようになり、正しい筋肉系統の発育を導くことができる。このような意識がなかったため、この頃の僕が行っていた調馬索は必ずしも北祥にとってプラスとはなっていないように思う。

調馬索で馬体をほぐしてからフラットワークにうつることになる。フラットワークで一番心がけたのは、“馬の動きを邪魔しない”運動であった。2月以降、フラットワーク、障害に関して中田兄の指導のもとで北日学までやっていくことになるわけであるが、中田兄が最初に僕に教えてくれたのがこの“邪魔をしない”運動である。

北祥号は口が非常に敏感な馬で、騎手が手綱を短く持ったとたん、“手綱を持つな”といわんばかりに頭を上突き上げる癖があった。たとえ、頭を無理矢理下げさせることはできても、脚による推進により、後軀からハミまで推進をつなげることは、自分の技術の面から考慮しても、この馬に関してはほぼ不可能であった。そこで、無理に最初からハミ受けにこだわるのではなく、まず人間のバランス向上のための練習から考えて取り組むことになった。冬場、自分が行った練習は、主に放棄手綱による誘導、そして人間の座り、バランスの向上であった。

人間が馬上で邪魔をしないで、基本的な座り、バランスを獲得することができて初めて正しいハミ受けでのフラットワークが得られるという考えを信じ、冬の間はひたすら人間の技術向上を計った。ただ、放棄手綱とはいっても、基本的な要素である”馬を大きく動かす”ということは常に忘れずに騎乗した。脚を使ったら馬が瞬時に反応して前へ出るようにする、また単に前へ出すだけでなく、馬のリズムを壊すことなく大きく動かすことを念頭において普段の練習に取り組んだ。

その成果もあってか、春に入ってから冬場と比較して、一段とバランスや座りが良くなっていった。春以降は中田兄の考えで、バランシングを用いたフラットワークを取り入れることにした。しっかりとしたハミ受けの理解ができていない馬になぜバランシングを装着して運動させるのか最初是自己自身疑問を感じていたのだが、中田兄の考えによると、この馬にとってのバランシング装着の一番の目的は馬に無理を強いることなく、馬に自然と体で正しい筋肉を使うことを覚えさせることであった。とはいうものの、馬歴2年程度の僕がこの道具を使用して意味のある運動をこなすことは技術、知識においてかなり不足しているわけもあり、よって中田兄に下乗りしてもらい、運動の組立て等も指導していただきながら、徐々に自分一人で乗りこなせるようにしていくことにした。バランシングを使用しての運動で心掛けたことは、常に馬に内方姿勢をとらせて運動させることであった。基本的なことではあるが、やはり内方姿勢をフラットワークで常にとらせるようにすることは、騎手にとって非常に難しいものだということを確認することができた。また、この運動により、馬体を充分ほぐすことができるようになり、以前に比べ、腰への負担も減らすことができるようになった。

しかし、バランシングを用いてのフラットワークでは、馬に無理をさせることなく、一定のリズムで運動させることはできたものの、いざバランシングを外して運動を行おうとすると、ものの見事に首を突っ張ってしまう癖がすぐに再発した。この時騎乗していて感じたのは、馬自身が頭を上げることでバランシングが作用するというのを深く認識し過ぎたためか、バランシングを付けて運動した途端ハミに抵抗することを諦め、外方手綱のコンタクトが不完全な状態でさえも、頭頸を下げているということであった。道具というものは、あくまでも調教段階の部分で使用するものであり、自分の要求する運動が道具を使用することで1ランク上へ上がることが可能であると考えれば使用するべきである。そして最終的には、その道具の使用なしでその要求した課目をこなせるようにしなければならない。ところが、北祥号に関しては、道具を装着している時と、それを外した後では全くつながりのない運動

を行ってしまった。どうしても北祥の頭頸を下げさせてフラットワークをこなすことが自分の技術不足のせいで行うことができなかった。そしてそのような悪循環を繰り返してしまったことで、結局馬の背、腰に大きな負担をかけてしまい、シーズン中も度々腰からくる跛行が見受けられるようになった。結局この難題を完全に克服できない状態で北日学をむかえることになる。

次に、障害飛越に関して僕が心掛けたことは、フラットワーク同様、馬の動きを邪魔しないで飛越させることであった。北祥は、飛越においては常に前向きな馬であり、どんなに踏み切るポイントが合わなくても、天性ともいえるバネで障害を克服していく馬である。よって自分がすべきことは、しっかり推進して良いリズムで障害へ向けることであった。しかし、北祥は脚反応に対し、かなり鈍感であり、技術のない自分にとっては推進は日々困難を極めた。そして、推進しようとする気持ちが先走ること、かかとを上げたり、姿勢を前傾させて推進しようとする癖が身についてしまうのに時間はかからなかった。基本姿勢が欠如した推進ほど悪循環に陥っていくものはない。北日学を2か月前に控えたころになり、とうとう北祥が障害を拒止するようになってしまった。

シーズン前半は主にジムナスティックを取り入れ、馬に正しい踏み切りで飛ぶことを理解させようという考えで取り組んできた。そしてそれなりに人間の技術向上また踏み切りの安定性が以前に比べ、得られていた。ところがシーズン後半から人間の焦りから生じる基本的部分の過失によって、馬が障害飛越に対して恐怖心を抱くようになってしまった。6月の春季自馬大、7月の公認大会においてMCに出場したのだが、今まで経路走行で止まらなかった馬を両競技会でそれぞれ1反抗させてしまった。明らかな人間の過失。あれだけ馬上で暴れていたら、飛越拒止もいたしかたない結果であった。公認が終了して北日学まで残り2週間。この期間に、自分はもう1度、“馬に邪魔しないで騎乗する”という基本事項について考えた。そして北日学がやってきた。

<北日学>

今年の北日学は、ノーザンホースパークで開催された。NH Pは何度も連れて行って馴致も十分行っていたため、馬にも特別な緊張感はなかった。

二回走行一日目。準備運動ではこれまでになく馬を大きく動かすことができ、良い状態で競技に出すことができた。今までの競技会、練習での過失を頭に思いうかべながら、一つ一つの障害をクリア。踏み切りがあつてない場面も数多かったが、そんな時も常に先跳びをしないようにし、馬が飛越するまで静かに推進した。結果2落下。

二回走行二日目。ひどい降雨のため、経路の高さは昨日と同じH125のままであり、昨日の走行をイメージしながら騎乗した。一走目に比べ、馬の前進氣勢は少しもの足りない感じがしたが、馬のリズムを壊さないで廻ってれば必ず帰ってくることができると信じた。踏み切りも馬が自然と合わせてくれる感じで走行できた。結果1落下。

二日間総減点12、結果7位。全日本の権利獲得。ありがとうスピ。

<来シーズンに向けて>

また1年間北祥に騎乗することになった。はつきりいつて今までは人間が馬に助けられていた面がほとんどで、人間が助けることは減多になかった。今度は僕が北祥に何かを伝えていかなければならない。基本的なハミ受け。飛越姿勢の改善。背中に負担を与えないフラットワークetc・・・自分がなすべきことは山ほどあるのだが、チーフとして任されてきたこの9か月間の反省を生かし、来シーズンは更なる飛躍の年になるよう精進します。これからも一緒に頑張ろうな、スピ。

<最後に>

毎週末には馬場にお見えになり、多くのアドバイスをいただいた市川部長、北祥のた

めに特別な鉄を作ってくださいました山川さん、審判員の松下さん、これまで支えてくださったOBの皆様、部員一同、そして専属で指導してくれた中田さんにはこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。来シーズンもよろしくお願いいたします。

Flowerist

葉花園



CO. LTD.

四季おりおりの花を

美しいデザインで

お届けいたします

慶弔用スタンド(一段・二段)

アレンジメント・花束

ブーケ・コサージュ

花材一式 etc.

〒001 札幌市北区北18条西4丁目

本店 ☎(011) 737-6241

FAX(011) 737-2430

〒064 札幌市中央区南4条西5丁目

シャンゼリゼビル1F

☎(011) 512-7969

◇北鈴（スズロード）◇



調教報告

長田 拓郎

代が変わった9月、大崎兄から受け継ぎ、中田兄との二人三脚で調教を進めていくことになりました。しかし、実際は馬の調教速度を中田兄が維持し、その馬をこわしながら自分がレベルアップしていくという形で1年間を過ごしました。

今年の北日はノーザン開催だということで、自分ではチャンスもあるかと思っていましたが、結局、人の実力不足という問題で、権利にはとどきませんでした。馬はもう1段階で権利、ということまで来ていると思います。

乗り変わった秋は、前任者の大崎兄に見てもらいながら、調馬索を併用し、運動していました。中田兄からは、「お前は1人で悩んで、1人で解決しろ。」と、言われていたので、日々馬をイジメ倒し、あげく肩を跛行させ、山下杯をパスしました。それでも、「自分が動かせるまでは、馬に我慢してもらわなければならない。」と、馬の負担を軽く考え、ただただ乗っていました。今思うと、この秋に中田兄や大崎兄にしっかり見てもらって、もっと馬を大切にしたら運動をすればよかったと、後悔しています。この頃の自分は、前年度の北日の総合の結果から、馬場でリードした者が勝つと信じ込んでいたので、とにかく“ハミ受け”をさせようと、推進も出来ないくせにハミをいじり、馬が苦しがるのに反抗として鞭でしばき、馬に乗ろうすると馬が嫌がって蹴るといふところまでいってしまいました。障害は馬場が出来てからとも考えていたので、キャバレッティ後のクロス以外はほとんどやりませんでした。

冬に入ると、人も多少なり進歩が見られ、“内方ハミでの頭を下げる運動”はかろうじて出来るようになり、また、この頃自分なりにこの馬の動きに慣れてきて、乗れるようになったと勘違いしてしまいました。左後肢に問題が出てきたのもこの頃で、常歩では特に踏み込みが浅く、自分のバランスや脚の問題を無視し、しかも、左後肢が踏み込めないので、右手前の運動で馬体が屈曲できず、苦しそうに運動していました。横運動も始め、ハミと鞭と拍車だけの斜横歩を繰返し、肝心の脚が使えていないにもかかわらず、また、内方と外方の使いわけもできてないことに気付かないまま馬をイジメ続けて馬場移転となりました。

雪が融け、馬も我慢できなくなったのだと思いますが、走るようになり中田兄が普段の運動から見て下さるようになって、3週間を1ステップとして、人も馬も調整していこうということになりました。半沢杯は、Bクラスをただ走り抜け、自分のいたらなさを痛感する結

果となり、ツースターもまわりましたがとても見れた物ではなく、秋、冬と自分がやってきたことが全て失敗だった事に気付きました。馬場大でもツースターに出て、馬が上を向いてまわり、ようやく自分に推進が足りないことに気付きました。ビデオをたくさん見て、上手な人と自分のどこが違うのかを考え、自分なりに乗り方を変え、まず騎座をしっかりと、上体、腰、座骨、大腿、下腿、鍔を三歩様で安定して乗ってられるように心がけました。しかし、馬に満足な推進ができず、馬をよく感じて乗ることも考えました。今までの自分の乗り方のクセや、イジメた結果が馬によく出ていて、北日までにより状態に持っていく自信が無く、中田兄に任せるしか無い、おんぶにだっこということになりました。

ノーザンの広瀬さんにクリニックをしていただき、少し、“馬を前に出す”という感覚を得、それを自分なりに三歩様で行えるようにし、また馬のリズムに合わせるということも心がけ、ようやく障害も走られずに跳べるようになりました。具体的にいうと、常に脚を馬体にピタッとつけて運動することが、前へ出すにも抑えるにも、馬を支配するために必要だと思います。障害飛越中も、しっかりと馬体を挟んで跳ぶ、といった基本的なことですが、あらためて気をつけなくてはならないと思います。

ステーブルについては、馬は、向ければ跳ぶ状態に近いと思います。性格が真面目なので、“馬を起こして待つ”ことが1つ1つの障害でできれば、満点も不可能ではないと感じます。馴致による人の経験と、馬と人の折り合いがつけば、問題無いはずですが。馬場に関しては、自分のレベルでは、そこまでのレベルに持っていくことはできず、“頭を上げさせずに経路をまわる”、“発進、停止を、できる限り反応よく”の二点を主に考え、後肢旋回、シンプルチェンジといったものは、ごまかしでした。やはり、“外方のハミに馬を溜めておく”ことができなかつたため、馬場のレベルは低いものでした。日頃のフラットワークで常に考えておく必要があると思います。

以上のような状態で北日に臨み、初日の馬場は中田兄の指導のおかげで、かろうじて全日の権利に届く可能性が残る位置につけました。人が集中して、馬のリアクションを1つ残らず感じとれば、それなりにおちついた演技ができると初めて実感しました。2日目のステーブルは、周りの人馬が思うような成績を出せておらず、満点ならば確実に権利という状況でした。1番、2番とクリアーしていったのですが、馴致で通した時に人のせいで少し避けてしまった障害で、気を付けてはいましたが、再び同じミス人を人がやってしまい、1反抗をしてしまいました。馬は全く問題無かつたのに、人のミスが、とても悔いが残ります。それでも権利内に入って3日目を迎え、余力を三落に抑えれば権利がとれると思いましたが、人が馬に踏み切りを任せきりで、つまつたときは落とすという走行になってしまい、結局六落下し、権利外となってしまいました。よどみないペースで走行することも必要ですが、やはり人が伸ばす、つめるをコントロールし、できる限り踏み切りを合わせてやらないと、スズはつまると100cm以上はまだ跳べないと思います。

次の年に向けて自分が考えることは、まず、馬体を大切にしたい。現在、左後肢に血腫のような腫れを抱えていて、運動量が多いと跛行につながってしまうので気を付けて欲しいです。次に、体のかたい馬なので、特に左右の運動を多く取り入れて運動できるようになれば、馬場もふめると思います。3つめには、筋力トレーニングです。障害を跳ぶパワーがまだまだ足りないので、後肢をよく踏み込ませて運動し、背、腰に筋肉を付ければ、115cmはクリアーできると思います。

自分の1年間はスズにとってはほとんどプラスになっていないと思います。しかし、次やその次の騎乗者は自分を反面教師として、総合の全日の権利をとらせてあげて欲しいと願います。

◇北蘭（アーネストヒダカ）◇



調教報告

大崎 智弘

代が変わってしばらくしてチーフになった。がそれまで北蘭はケガをしていて長期間馬休中であつた。最初は調馬索からはじめ、少しずつ運動量を上げていきました。それまで北蘭のようにしっかり調教された馬は乗ったことがなく、最初は馬に慣れること、馬に教えてもらうことばかりでいろいろやって、なにが正しくてなにが間違っているか教えてもらいました。小手先でごまかして乗っていると一見うまく乗れているように思えるが、実は馬は動いていないことが多かった。大事なのは馬を動かすことであると思つた。年が明けて、半澤杯で初めてこの馬で障害に出た。しっかり動かした中でじっと待つてやりつつ、障害前では脚でリズムを大きくしてやらなければならなかつた。シーズン中は主にこの乗り方を通してやった。一度だけ、つめて、踏み切りを合わせてやって障害3歩前で出すことをやったが、リズムが悪くなつてしまい、脚でしっかり指示を出してやらなければならなかつた。普段の練習は、毎回同じように脚反応を確かめるようにした。障害では、ジムナスティックで筋肉をつけようと試みた。

季節料理 北の穴ぐら

く に ひ ろ

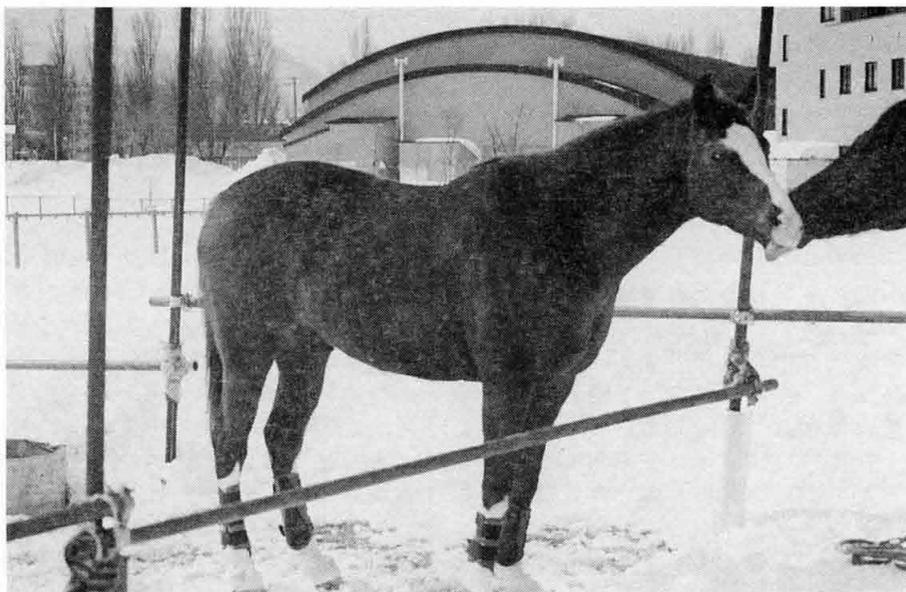
國 廣 雅 臣

〒011 札幌市北区北23条西9丁目1-35

店：011-746-3765

自宅：011-729-9890

◇北蒼（トワイライトブルー）◇



調教報告

川崎 洋史

北蒼は北大に来て2年目の馬でした。昨年は初めての総合ということもあって、北里の野外で5反でした。今年は地元、ノーザンホースパークでの開催ということでなんとか権利を取りたいという気持ちでした。馬場・野外・障害、どれをとってもできない訳ではないのですが、経験はとても浅く乗り手も技術的に十分とは言えませんでした。北日では調教審査・53%、野外・2反、余力・1反2落、という結果に終わってしまいました。自分の経験をもとに3つにおける、調教・運動についてももう一度考え直して見たいと思います。

調教審査について

今回の北日では4位でしたが、それまでの試合の感触からいって北日の中では結構上位にいける実力のある馬だと思います。ただ、環境が変わったりすると、落ち着かなかったりして大変ですが、それはこれから経験をどんどん積んでいけば解決されることだと思います。

普段の練習ではこれはどの馬にも共通するかと思いますが、馬の集中力はそんなに長くは続かないと思います。時間をかけずに短時間で中味のある運動を心掛けるべきです。

フラットワークの中でも体をほぐす運動と馬場を意識した運動をきっちり分けた方が良いと思います。とくに北蒼の場合は、下級生が乗ると背中を反ったまま体をあまり動かさないので、上級性が乗って馬場を意識した運動にすぐ入るのは無理だと思います。そのため、体をほぐす運動はとても大事だと思います。調馬索などもうまく取り入れられれば有効だと思います。

この馬のハミ受けに関してはあまりはっきりと私には分かりませんが、とても良いものを持っていると思います。ただ、手綱にばかりたよっていると、どんどん馬が運動を嫌うようになり馬が動かなくなるばかりか、頭を下げなくなってきました。馬の気持ちを考えながら気持ち良く運動させることが大切です。

野外走行について

まだ経験が浅いので練習では一つ一つ障害を馴致して納得させた上で飛越させていました。ほとんどコース全体を通してやることはありませんでした。それで良いと思います。

北日でが1番、2番障害でそれぞれ1反づつしてしまいました。馬のボルテージを上げき

れず、まだあまり連続でしていなかったのが馬が躊躇してしまいました。経験の浅い馬ではペースをつかむ上でも4つくらい連続でやるべきでした。しかし、その後の走行は完璧だったと思います。スピード、持久力とも申し分ありませんでした。北日のあと、国体予選にも出たのですがその時の野外走行は十分満足できる結果が得られました。といっても北日と同じコースだからあたり前かもしれませんが。この馬の野外における実力は十分にあると確信しました。いろいろなコースで馴致、訓練していけばより安定した走行になると思います。

余力審査について

シーズンの中ごろ、競技会での走行がとても不安定な時期がありました。原因は馬の障害に体する前向きな気持ちを自分でつぶしていたということです。走行中に手綱で馬のペースを押さえよう、踏切を合わせようとしていたことで馬は自分のペースを乱されて気持ち良く走行できなかったのだと思います。それに気付いたのは北日の本番でした。国体予選でやっと馬の気持ちと合うようになってきたかなと感じました。

普段の練習では常にコンビネーションで馬のリズム、人のバランスを心がけていました。高さも110くらいまで十分だと思います。常に大事なものは準備運動です。馬の体をほぐすのはもちろんで、馬の気持ちをいかに障害に向けるかがカギとなります。

全体を通して、北蒼のきもちを良く理解しようとしながら運動していかないと馬が運動に対して嫌気をさすばかりでなく、積み重なると調教までもが崩れてしまうと思います。北蒼は人と馬との信頼関係を築きやすい馬だとは決して思いませんが、この壁を越えないとこの先への段階へは進めないと思います。

これから北蒼に乗る人は大変だと思いますが、頑張って東京へ連れて行ってください。努力すれば答えてくれる馬だと思います。

最後になりましたが、北蒼についていろいろアドバイスを下さったOB、乗馬関係者の方々にはいろいろとお世話になりました。これからも北蒼のことを見守っていて下さい。

有限会社 菅原写真商会

パスポート写真

カメラ・カラープリント特急仕上

3分間写真

各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662

◇北陽（ドリームグリーン）◇



調教報告

金丸 鉄平

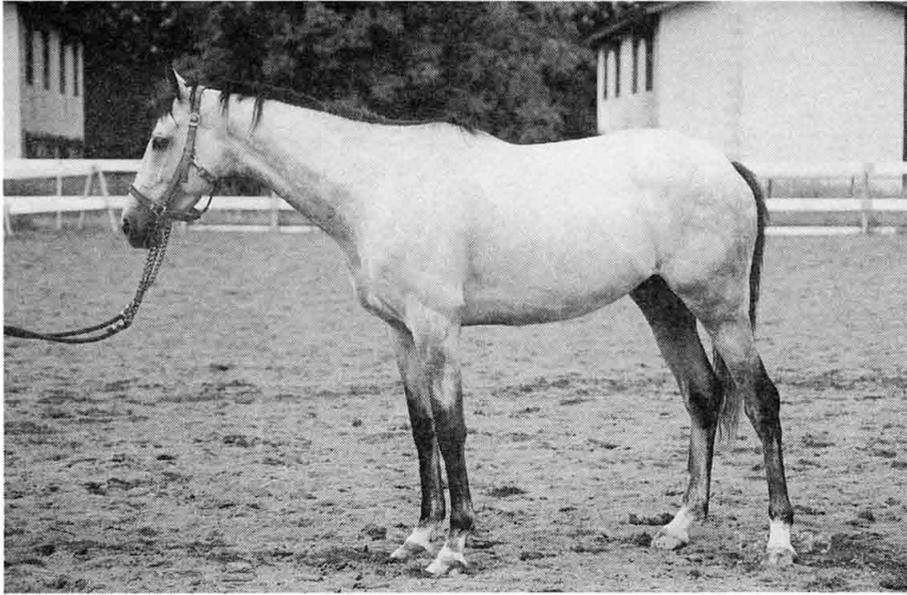
ドリームは98年7月の入厩、去勢以来OBの中田さんが初期調教を担当していました。私は99年のシーズン中から頻繁に乗せてもらっていたので冬場のことはあまり知らないのですが、3歳馬の中でもずば抜けたやんちゃぶりと、扶助を何も知らない状態からの調教というのはとても大変だったようです。

夏場に私が主にやらせてもらっていたことは、速歩、駈歩で一定のリズムで走ることでした。競馬で走っていないせいか、焦ってどんどん速くなったりすることはめったになくその点では乗りやすかったのですが、そのかわり一生懸命になることもなく常に一緒に遊んでいるというような印象を受けました。

障害に関しても、クロスと小さなものの馴致を少しずつやっていたのですが、怖がるようなところはなくむしろ興味を持ってやっているという感じでした。そのため最初のころは、この馬は物見をしない神経の太い馬なのかなと思っていたのですが、実はものを見ても気にしないのではなく、周りがあるいろんなものに普段は気付いていないというだけで、それまで何ともなかったものを急に怖がりだすという姿をシーズン中何度か見かけました。もともと気の強い馬なのでそういう時は人のいうことをなかなか聞かず、人間の無神経な接し方で馬の性格がどんどん変わっていくという新馬調教の恐ろしさ（新馬に限らずどの馬にもいえることですが）を改めて感じました。

99年9月から私が調教を引き継ぐことになったのですが、当面の課題は、後肢の筋肉が発達していないのと太りぎみのせいか、常に前駆にかかった走り方をするので、筋力トレーニングを中心に徐々に重心を後駆へ移していくことと、その中で手綱に対する追従性や、脚に対する従順性を高めていけたらと思っています。障害は、とりあえずコンビメーションを放棄手綱で一定のリズムで飛べるようになることを目標にしています。新馬がなかなか育たない現状の中で、馬体・性格・年齢などある程度の条件をクリアして期待されている馬なのでこれからもご指導のほどよろしくお願いします。

◇北彗（メジロゲネシス）◇



調教報告

尾崎 哲浩

北彗は、僕たちが最上級生になってまもなく北星乗馬クラブより入厩してきました。始めは、角堂兄をお願いして、見てもらっていましたが、4月に、兄の渡米に伴い自分が引き継ぐことになりました。

乗馬クラブから入厩したということもあり、初期の調教は施されていたようですが、まだそれほど調教されておらず、乗ったとしても、新馬という印象は強かったです。ただ、初期調教がしっかりしていたので、馬場の調教に関しては、とてもスムーズにいったと思います。

問題は馬の性格にありました。背中に負担がかかると我慢できずに跳ねてしまいます。駈歩で誤って背中をたたいたとき、障害で馬に無理がかかったときなど、よく跳ねられて落馬しました。馬術部の馬は常に上手い人が乗るわけではありません。この馬は、上手な人が乗れば非凡な能力を見せていましたが、学生としては、だれが乗っても飛ぶという馬が理想で、そういう意味でゲネシスは自分たちが求めている馬とはかけ離れているのではないかと思い、離厩を考え始めていました。

しかし、とにかくやれるだけのことはやろうと思い、調馬索で背中の筋肉をつけることにしました。同時に、コンビネーションを落ち着いたいいリズムで飛ばせるように毎日やりました。とても、地道な作業でしたが、秋ごろには、跳ねることもなくなりかなり安定して飛べるようになったので、何度か障害の試合に出ました。

自分が、この馬に乗っていて、馬の性格ががらりと変わったときがありました。ノーザンで野外の馴致をした後です。

とりあえず、入厩して一年経ちましたが、経過は今のところ順調です。来年の夏には北日本にという声もありますが、焦らずに地道にやっっていこうと思います。

◇メロンパワー◇



入厩報告

山本 裕己

メロンは99年4月に札幌競馬場から入厩してきました。メロンは駆歩になると非常にかかる馬で、競馬場の乗馬クラブで一般のおぼさんを落馬させて骨折させ、それがメロンの離厩に拍車をかけて、うちに追い出されてきたようです。

北大に来てからのメロンは、下級生の練習馬として予想以上に活躍し（こき使われ）、みんなにかわいがられ、すっかりおとなしくなりました（やつれました）。これからも練習馬として頑張ってください。

おいしい食事の **これが下宿!!** フレンドシッス22

北区北22条西8丁目

交通/地駅北24条歩6分・構造/鉄筋地上5階建

下宿料/2食付 **56,000**円(家賃**3.5**万円・食費**2.1**万円)

作り立てホカホカの料理とうれしいごはん食べ放題!!

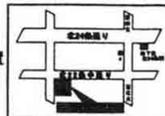
敷金/1ヶ月分・管理費/4,000円(月)

間取り/8帖ワンルーム

設備/FFストーブ、ベッド、
机、収納タンス、電話、浴室、洗面所、
駐車場有(6,000円)、洗濯室各階に設置

短期契約・お食事
ご相談下さい

女性の方も
歓迎!!



お問い合わせは… ☎ **737-8023**

レストランでは手作りのおかずいっぱい日替り定食を600円で提供しています。
(営業時間PM6時～PM9時まで)日曜、祝祭日はお休みです。

◇カッティングダーク◇

入厩報告

中川 大介

彼は、11月14日にN. H. P. からやってきました。母カッティングエッジ、父ジェイドロバリーという血統と素直でおとなしい性格で期待を集めています。

競争成績はふるわなかったけれど、君の素質が乗馬で開花して、全日で勇姿を見せてくれることを楽しみにしています。

ガンバレ！！かつお。

◇サイコードレム◇

入厩、離厩報告

畔柳 宏司

'98年12月、馬運車に冬タイヤをはかせた我々は前代未聞（?!）の旅に出た。まずは旅紀から。

- 12月11日 吹雪の中を出発。当然男ばかりのメンバーは大崎兄、川崎兄、金丸兄、くろ、鷹箸。
フェリーでは、真っ暗な海に波の音、たまたま巡り合った流星群でみんな、がらにもなく詩人に。
- 12月12日 朝、八戸発。夜中までかけて静岡へ大爆走！！
リュウコウテイとクラークロード、平沢RGにてお別れ。
- 12月13日 再び北へ。富士山に感激。レインボーブリッジからのお台場にワクワク。記念写真ラッシュ！温泉に入って疲れをいやし、福島は原町へ。
- 12月14日 ハーパーオーカン、サイコードレムをつれてGoing Home！
フェリーは夕方、今までよりちょっと楽かな。
フェリーで爆睡。
- 12月15日 朝、凍った道に緊張しながらなんとか札幌へ。
よし、東日本制圧だ？！

ここまでして連れてきたドレムはインターハイに出た馬であった。しかし貸与馬競技インターハイの恐ろしさを知るまでに時間がかからなかった。調馬索もなかなか回らない。乗っても・・・うーん。とりあえず、調教担当は川崎兄、馬体管理はくろ。

まず仕事は体中にこびりついたボロを落とすこと・・・2週間。やっと冬合宿中、僕らを乗せて調馬索を回りだした彼は、1月始めに馬場で乗り始めた日、跛行。

原因もよく分からないまま跛行はずっと続き、その後は保健運動の調馬索のみ。4月半ばに美瑛へとトレッキングをしにいきました。

ドレム君は物おじしないことでは天下一品、新しい仕事は性格的には天職。今度こそしっかり頑張って幸せに過ごさない！

◇北優（ビコーエオン）◇

エオンはグラッドリー、イーリアスと一緒にモモセ R. F. に行きました。なぜエオンが離厩したのか。その一つに障害を飛ばないということがありました。飛ぶ能力はあったと思いますが、特に知らない障害をととても怖がっていました。かといって馬場を目指せる馬でもなかったのですが、彼にはイイ面もあります。何といてもおとなしい、丈夫、乗りやすい、そしてカワイイということです。そのため、1年生を乗せるためには最高の馬だったのではないのでしょうか。その他、馬術講習会のような行事ではエースでした。

そういう面で考えると、彼の抜けた穴は大きかったと思います。思えば僕の馬術部人生はエオンのためでした。彼がいなかったら・・・、と思いますが、今エオンはモモセで幸せに暮らしているので、彼にとっては北大にいるよりもよかったのかもしれないです。モモセにいつしばらくしてこのエオンのイイ面を見込まれて、新しいオーナーさんも決まって馬房もパドック付きに移り、名前もクリアーとなりました。しかもとても可愛がってもらっていて、毎日のように手入れも馬房掃除もしてもらっているので、いつ会いにいつてもピカピカで、馬房はフカフカで、しかも幸せ太りしています。

ことしのモモセダービーでエオンに会いました。エオンも部班に出るらしく、ちょうどたてがみを編んでいるところだったので、手伝わせてもらったならなんと、乗せてもらえて幸せな一時を味わったのですが、エオンは新しいオーナーさんの馬になってよかったんだということに気がつきました。

◇ユノプリンス◇

入厩、調教、離厩報告

畔柳 宏司

僕は半年間彼を担当し、この中で多くを学び、騎乗や考え方が大きく変化しました。ユノがいた半年間と一緒に振り返りたいと思います。

4月17日 ユノプリンス入厩

黒くがっちりした馬体。バランスもよいと言われる。
額のハートマークがかわいらしい。ただしチビ。

調教を依頼した小谷兄は学校が忙しいなどの理由で来れず、騎乗者無しになる。

5月17日 去勢

回復順調。ここから自分が馬体管理責任者になる。
しかし騎乗者なし。馬休1ヶ月。

6月18日

松下さんが調馬索を回して下さる。初めは回らない。
声をかけて追い鞭でトモをつつき歩かせる。「馬とけんかしてはダメ。」
と言われて納得。

馬はすぐ人に乗せて回り始め、横木も軽くまたぐ。徐々に自分が回し始め、頸は気にせず元気に歩かせる。

8月

依然調馬索を自分が回す。駈歩もさせるが、正手前がなかなか出ない。
丸馬場ではないので、外に逃げようとするようだ。
速歩までの騎乗をするが大きな図形までは描けるが、脚反応は非常に雑。

離厩候補に。

- 9月1日 代変わり
自分が馬体管理者になる。一年生の部班に使い、そのあと自分で乗る。部班にはすぐに慣れる。信じられないくらい動くが、嫌な馬に向かっていくときは危険。運動は自分で考えても部班の応用程度。速歩からの駆歩は出たところ勝負。キャバレッティ本格的に開始。低いクロスも平気でまたぐ。
- 10月前半
部班にはだいぶ慣れてだれる。OB戦のジムカーナを目指し低い障害から始める。跳び方を覚えたらまたがなくなる。ダブルも初めは、止まったり逃げたが、追い鞭で追われて跳んだ感じを覚えたらしく、苦しなくなる。踏み切り幅も安定してきて、垂直は60、ダブルは40、60まで全く臆せず跳ぶ。エサのおかげか？この頃、離厩正式決定。
- 10月17日 OB戦。
準備馬場では環境がやや違ったせいか、立上り続ける。落ち着けばいつもどおり。不安だった誘導もなんとかなり、自分のミス以外は上々。二鞍目の栗原姉のときは、やや慣れて、ダレたが、なお上々。
- 10月後半
相変わらずの部班と、自分のバランス改善のため速歩で丸馬場を回る。
- 10月31日 静岡、平沢ライディングガーデンへ旅立つ。苦小牧でお別れ。どこにいったって彼なら大丈夫。

入厩当時から調教者もなく、松下さんに教わりながら経験、技術とも全くない自分と共に一から覚えてきたような半年でしたが、自分にとって大きな勉強になりました。とても楽しく幸せなときを過ごせました。ありがとう。

松下さん、本当にありがとうございました。

◇ムーンライト◇

入厩、離厩報告

長田 拓郎

ムーンライトは、春に静岡の平沢R・Gからきて、川崎兄が騎乗していました。右前蹄に蟻洞があり、少しピッコを引くときもありましたが、能力は折り紙つきで、乗っていただいた方には、「これは大障害馬だね。」とか、「全日本で入賞できるよ。」などと言っていたきました。しかし、馬が完成され過ぎていて、また性格面も人をなめたようなところがあるので、熟練者でないと能力を発揮できず、自分達では障害前で推しきれずに拒止したり、踏み切りを人が読まなくてはならず、合わせられないと止まってしまうということを繰り返しました。

その馬の能力が存分に発揮できる場に居た方が馬のためと思い、ムーンライトを離厩させることとなりました。ムーンライトは、静岡へ戻され、買手がつき、上手な人に乗ってもらって競技を目指しているそうです。今度は「馬術情報」で会えるのを楽しみにしてるよ。

◇北神威（ランフォーローズ）◇

馬匹紹介

人が彼の馬房の前を通ると・・・
馬が彼の馬房の前を通ると・・・
飼い付け前に彼の馬房の前を通ると・・・
・・・・・・・・。

◇北桜冠（ハーバーオーカン）◇

離厩報告

オーカンは平沢RGにいきました。向こうではとてもいい評判で、まもなく愛知の方へも
らわれたそうです。

片目の猛者は今も現役であることでしょう。

◇マチカネヤノゴトシ◇

離厩報告

井口 大地

平成10年の秋口にマチカネ牧場から入厩してきたヤノゴですが、その後調教を続けてい
く中で、外方に逃げる癖がなおらず、また、どうしても右駆歩を出さないなどの問題があり、
障害に向かう姿勢には光るものがあったのですが、やむなくこの9月28日に離厩しました。
彼はオーフルホースコミュニティの斉藤さんの手を経て秋田農業短大へ行きましたが、なんでも
部員が10人程で、馬が道産子2頭しかいないそうです。きつとみんなに可愛がられてヤ
ノゴも幸せな日々を送っていることと思います。

◇北獅（シャディーデュードゥー）◇

死亡報告

大崎 智弘

経過

北獅は、以前から季節の変わり目、特に気温差が大きいときに疝痛をよくしており4月に入
ってからすでに、2度疝痛を起こしていました。暖かい日が数日続いて、当日の朝は小雨
が降っており少し寒かった。北獅は、こういう日によく疝痛を起こすので馬着を着せて対応
していました。

4月28日 昼 疝痛の症状が見られ、曳き運動をやるが改善のみこみがないので農済の獣
医に来てもらいバナミン15cc（鎮痛剤）を注射してもらった。夕方には落
ちついていました。

21:00 投げ草時に再び疝痛の症状あり。

21:30 聴診し、腸の運動は聞こえた。腸内にガスは溜っておらず、原因が不明。痛みが見られるので補液3ℓとパナミン8cc投与。しかし、痛みが治まらないので曳き運動（調馬索20分）を行うが変わらず。直腸検査によりボロを出してやる。非常に固かった。部員だけでは無理だと判断し、農済の獣医に再び依頼。

23:00 農済の獣医により補液7ℓ・パナミン10cc・抗生物質投与・流動パラフィン（下剤）を入れてもらう。少し落ち着きが見られたので様子を見ることにした。

4月29日 5:00 明け方から再び痛むのか、起きたり寝たりした。パナミン10cc投与。良くなっていないため、大学の内科の獣医に依頼。

11:00 病体が良くないために、セラクタル（鎮静・鎮痛・筋弛緩効果）を投与し、馬運車で大学の付属病院へ移動。
直腸検査の結果、腸の後方には原因が見つからず、腸の前方に何らかの原因があると判断。開腹手術をしても助かる可能性は低いため、安楽死に決定。

15:00 麻酔による安楽死。

4月30日 13:00 病理解剖。

病理解剖の結果（剖検報告から一部抜粋）

右腹側結腸から左腹側結腸の腹壁は高度に出血または水腫によって肥厚する。（約2.5cm）この部位の動静脈は血液の凝固は不良となる。これらの結腸粘膜は暗褐色～黒色を呈し、重度の出血及び壊死が見られる。右背側結腸の粘膜は高度に水腫性となり肥厚する。同部の粘膜下織には最大2cm面大の白色巣が散在する。上行結腸間膜には概ね全域に渡り、重度の出血が認められる。

アパート・マンション・一戸建・店舗・倉庫

有限会社 **エステーション**

お部屋探し、おまかせください。

仲介料10%オフします。「本誌を見た」と、お伝え下さい。

札幌市北区北18条西3丁目 I・Dビル2F



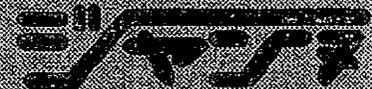
Welcome to Estation

☎011-709-8850

☎011-709-8851

心と器管のスキマ
お埋めしまあ♡

くつろげる
激盛の店



年中無休

北21西54 TEL:748-0579

PM5:00~12:00

卒部にあって

大崎智弘

終わってみるとあっという間の4年間でした。学校で忙しいのを理由に様々な人たち、特にドンパの人や後輩たちには本当に助けられっぱなしだったと思います。また、様々な馬たちに出会い、助けられ、時には勇気づけられ、そして彼らから多くを学ぶことができました。このことを、この経験を、この学び得たことを、これからも忘れず、今後に生かして自分を育てていきたいと思っています。

最後になりましたが、今まで私の周りで見守ってきて下さったOB、先輩方々、市川先生、乗馬関係者の皆様、本当にありがとうございました。また、これから活躍される現役の皆さん本当にありがとう、そしてこれからも今まで以上に頑張ってください。

尾崎哲浩

正確な話、自分がここまで馬術部に染まるとは思っていませんでした。なんとなく、入部し、のらりくらりと続けてきましたが、いざ最上級生になり、馬を任せられ北日本、全日本を目指すとなると、もう部活のことで頭がいっぱいになってしまいました。馬術部という部活は、そこまで自分を必死にさせてくれたのです。自分にとって、何にも変えがたく、貴重な4年間でした。

さて、現役の皆さんは同様に馬のこと、部のことで頭がいっぱいだと思いますが、ぜひそのまま突っ走ってください。どんどん上を目指して行って下さい。いつか、きっと日本一になることを、このばかな私が本気で夢見て、応援し続けたいと思います。

金丸鉄平

「部のために」という気持ちを持つことについて。体育会離れが進み、各部が部員数の減少に悩む中、一頃よりは人数が増えた馬術部も例外ではない。これは最近の社会の傾向から、厳しい上下関係や人間関係、時間的な拘束などを嫌う人が増えたからだろうけど、一方で体育会に入る人の間にもそういった心境の変化が大きくなっているような気がする。

部活動の目的が主に人間性の向上にあることを踏まえた上で、個人が自分の体のために、友達を作るために、社会勉強のために、と自分のために部に所属することは当然だけど、そこでなにかしら恩恵を受けている部に対し、また周りの人々に対し、感謝の気持ちを持つことも当然だし、それを表すために自分でできることを探してやっていくことはとても大切なことだと思う。特に馬術部の場合、そうやって「部のために」やるのがそのまま「馬のために」ということに直結するから。今、部にいる馬たちはここに来たくて来たわけじゃない。かといっていきいたいところにいけるわけじゃないし、望んだ生活ができるわけでもない。馬術部がなくなったら、自分たちが行き先を決めてやらないかぎり生きていくことはできない。そんな馬たちと生活していくことを決めたのなら、「部のために」「馬のために」自分でできることを一生懸命やっていくことが、普段乗せてもらっている馬たちに対して本当の意味で感謝の気持ちを表すことになると思う。

下級生のうちは自分にできることは少ないけれど、少ないからこそできること、言われたことを一生懸命やっただんどん吸収していかないといけないし、上級生になれば、部の運営は当然のこと、馬たちが競技馬なり練習馬なり、部の馬として役割を持って少しでも長くいられるように調教していくという騎乗面での責任も負っていかねばならない。でも、皆がすべてに目が行き届き、それをこなしていくことは無理なので、だからこそいろんな人間

が集まってやっているんだろうし、そうやってお互いに負担を分かちあっている中でも自分のことにばかり気をとられすぎずに、常に周りの立場、気持ちを考えていかなければいけない。

また相手の気持ちを思いやるというのは、これが馬であれば言葉が話せない分、なおさら言えることで、乗っているときでも降りているときでも常にそういう気持ちで接していかなければいけないし、これは馬と接していく中で学べることの1つだと思う。

「思いやりをもって人や馬と接していく」。すごく曖昧で難しいことだけど、そういうことが学べる部活であって欲しいから「部のために」「馬のために」そして「自分のために」、自信と、誇りと、やる気を持って取り組んで欲しい。

お世話になった方へのお礼を言う場でもりとめのない思いを書きつづけてしまいました。ここからが本題で、馬術部の4年間で様々な人、馬たちと出会うことができました。特に3年の後半には移転関係の仕事をしたこともあって、馬術部とは縁のなかった社会人の方と接することもできました。また市川先生のはこの時期いろいろとお世話になっただけでなく、北日直前、全日直前まで部に足を運んでご指導していただき本当にありがとうございました。名前をあげたらきりがありませんが、明治飼料でOBの中野さんと畜大OBの長岡さんには飼料関係で下級生の頃からお世話になり、また馬のこと、馬術部のことについて機会あるごとに話をさせていただきました。この馬を借りてお礼を申し上げます。その他多くの方々との出会いが自分の財産になると思います。本当にどうもありがとうございました。

川崎洋史

入部から4年が経ち、多くの人・馬に出会うことができました。多くの人と馬とに助けられっぱなしの4年間でしたが、これからの人生において多に役に立てていきたいと思えます。本当にOB、関係者の皆様ありがとうございました。

また後輩の皆さんにもとても感謝しています。これからは、北大馬術部との付き合い方を模索していきたいです。

栗原佳子

馬ってかわいいな。そんな軽い気持ちで入部して、毎日馬とたわむれているうちに卒部をむかえていました。いろいろなことがあったのに、あっという間の4年間でした。

つらくて続ける自信がなくなったこともあったけど、最後まで続けることができたのは、かわいい馬たちとすてきな仲間たちのおかげだと思います。

みなさんどうもありがとうございました。

フライト、ブルー、出会えて本当に良かった。

寺田由美子

「ゲーニーズ」っていう映画をみなさんご存じでしょうか？子供たちが宝探しの大冒険を繰り広げる物語です。

私はこの4年間、ずっと「宝探し」の旅をしてきたような気がします。何をやっても失敗ばかりのドジでノロマなワタクシなので、その道のりの上ではたくさんの人々にご迷惑をおかけしたりもしました。最後まで見守り、折に触れて手伝ってくださった先輩、後輩、ドンパのみなさん、そして馬たち、本当にありがとうございました・・・。

「ドンパ」。ヘンな言葉ですよ。でも私にとって、こんなに暖かく心地良く心に響く言

葉はありません。

映画の中で、途中で投げだして洞窟の抜け穴から脱出しようとするシーンがあります。でも仲間の1人が言います。「本当にそれでいいの？」そこでやめていいの？これで終わりにしていいの？

だれでも一度はやめなくなる、馬術部。やめたって、世の中辛いことはたくさんあるし、やめること＝逃げることでは決してないと思います。

でも、やめてしまったら、最後の宝物を発見することはできないですよ。もう二度と。

結局、映画の主人公たちは宝を発見しながら、トラブルにあって、ほとんど持ち帰ることができませんでした。それでも、宝探しの旅はまぎれもなく大成功だったのです。

「北日だけがすべてじゃない。」とか、「馬をもてななきゃ終わりなんじゃない。」とか、そんな大それたことは言いません。長い間、培われてきた伝統、そして今も昔も「北大馬術部」が目指すものは確固として存在し、重んじられて然るべきだと思います。それがあからみんなの力がまとまって、充実した時が生まれるのも確かです。ただ、それとは少し次元の異なるところで、例えば今「やめちゃおっかな」と思っている人などに私のささやかなメッセージが伝わればよいなと思うのです。

目指すものは1つでも、宝物は1人1人違ってよいと思います。私の見つけ宝物は、「ドンパ」でした。みんながいたから私は最後まで旅を続けることができました。最後の北日の写真は今も、そしてこれからもずっと、私の勇気と元気と自信の元です。

もちろん、先輩方及び後輩諸君、そして馬たちへの感謝も忘れませんが、みんなやっぱドンパは大切にしなきゃだめだよ。・・・“一生もん”だからね！と、心から伝えたいと思うのです。

感傷的、抽象的な文章でスミマセン。一般性ゼロですね。ま、たまには良いでしょう。こんな「卒部にあたって」も。

徳永やよい

3年半という、短いような長いような期間を馬術部員として活動してきました。私がここまで続けることができたのは、たくさんの周囲の方のおかげです。お世話になりました。そして、ありがとうございました。

私はもっとも馬術部員らしからぬ部員であったと思っています。終わって見た今、何が好きで馬術部を続けたのかなと考えると、馬が好きなのはもちろんですが、馬術部生活にある土臭い、あおあおとしたものやすがすがしい空気感が好きだったようです。毎朝、起きる瞬間は非常に辛いけれど、馬場にたつと、その内なんだか強い気持ちになることがありました。私はそれも馬術部を続けて手に入れることのできたものの一つだと思っています。やはり部としてやってくためには勝つことを考えなければならぬけれど、それはそれ、之は之で自分の楽しい瞬間を大切にしてください。

団体としてやっていく中には、なまなましく、すがすがしく、けだるく、まったりとした人間関係がありました。他社とかかわることを3年半という期間を通じて築いてきました。あまり周りの人間を大切にしていなかった自分も少しは変わったなと思います。自分の代の仲間が勝つとは本当に嬉しいことでした。自分の知らない今が不得手いくのはさみしいことですが、馬術部の後輩の活躍を楽しみにたまには顔を出そうと思っています。現役の皆さん、人馬ともにケガのないよう気をつけて、頑張ってください。

川辺聡

何だかんだいっても馬術部で1年半というのはとても短いものだ。でも、入部したてで何

も分からず過ごしていたと思うと、ずいぶん昔と感じられる。それだけ印象部深く、充実した日々だったのだろう。函館にいても声をかけてくれればコンパに行くし、北日も見に行くつもりなのでみんな頑張れ。



SELEBY®

**New look
for your
Own style**

- どんなことでも承ります
- 素早い対応をします
- 一着も大切にします
手着も大切にします

ユニフォームの専門メーカー

北海道 **COY** 株式会社

〒007-0811 札幌市東区東苗穂11条2丁目

☎011-791-2000

部員紹介

4年目

◇大崎智弘（前馬匹・獣医）◇

忙しいことを言い訳にあまり皆さんの手助けができなくて、かえって支えてもらってありがとうございました。

☆馬に何か異常があれば、すぐかけつけてくれる、頼もしいお人である。

☆見ためは真面目なことしか言わないような兄も、表情を変えることなく冗談を突然言うことがある。そんな兄が面白く思える。

◇尾崎哲浩（前副将・工）◇

私、これより勉学の道に勤しむことを誓います。

☆兄とトルを見ていると何かうらやましいです。いつかそんな仲になれる馬と出会えたらなあ。

☆トル FOREVER.

◇金丸鉄平（前北日幹事、前移転・農）◇

そうあの頃なら遠く見えた鳥の場所に届きそうで

今は体流れるこの気高く赤い血を燃やして

さあ目指す先へ光が差し雲がちぎれ見えたならば

耐えきれないほどの数の痛み胸に抱きよせて

☆めちゃくちゃかっこいい。

調馬索を回す姿はかっこええ。

Love Love, you.

☆兄のパロンに対する気持ちは、他ならぬものがある。僕が手入れすると噛んでくるパロンも、兄が始めるとたちまちおとなしくなってしまう。二走の時も、“パロン、そうそう、がまんだよ、がまんだよ。”と言う声が響いていた。そんな兄の愛馬精神は尊敬の域を超えている。

◇川崎洋史（前主将・獣医）◇

4年間ですっかり馬にほれちゃいました。

4年間ですっかり学校が嫌いになっちゃいました。

お父さん、お母さん、こんな僕を許してください。

勉強はわからなくても、きっと強く生きていきます。

☆兄は、きわどい人です。

ギリギリセーフのときが多いのですが、アウトのときもありました。

選手権はおもいきりアウトでしたが、なんとかギリギリセーフになって・・・。

学校の方もとりあえず今回はセーフということです。

☆川崎兄時々怖い目をしているけれど、馬と接しているときはよいお兄さんです。

◇栗原佳子（前主務・文）◇

いつの間にか4年生になった。

いっぱいしゃべっているうちに時が経っていたのかな。

☆いつも明るくて、姉がいる女子部室はいつもにぎやかでした。時には相談にもものってくれる私達のお姉さんでした。

☆イってます。ついていけません。

◇寺田有美子（前後援会・法）◇

ヒゲの似合う九州男児。ハツタリでもいいからその「余裕」は私をホッとさせてくれました。ホントだよ、カネマー。

副将になってから、あんまり遊んでくれなくなっちゃったけど。私の中には「オジャの珠玉言葉録」があります。あの時もこの時もアリガトウ、おじゃ。

不器用で、優柔不断で、どーしょーもないヤツなんだよね、カワサキって。主将なのにさ。でもホント憎めないやつだよ。「私の人生を変えた日」を覚えているだろうか？キミは。

何か黙々と一人頑張っちゃってさ。マジメでイヤなやつとも思ったケドさ、気がついたらその頑張りにひっぱられてたかも。心配しなくてもみんな一緒にいるぞ、大崎。

うるさいしさー。なんっかカンにさわるし。「大人になれよな。」とか思ったけれど、イヤー実は私の方が子供でしたわ。でもやっぱりもっと周りに気をつかえっ、ヨシ子！

トクポンは前にもいったけれど、「トクポンが生まれてきてくれて良かった。」と思っちゃえる人です。「ワイン&チーズ計画」覚えてる？

それから、水産にいつっちゃったモトコ。もっと一緒にやりたかったなー。でもまた会えるよね。っていうか会いにこい！

そして私は・・・。こんなすばらしいメンバーの一員です。それが私の誇りだったりします。みんな大好きだよ！ありがとう♡

☆寺田姉が卒部して以来、部には華やかさが欠けてしまいました。いなくなって寺田姉の存在の大きさを痛感しています。

☆姉は、優しく、厳しくて、女らしくて、かわいい人です。笑うと、その笑顔がとてもcuteです。よく、女の子たちの相談相手になってくれました。

そんなすてきな姉にも、やっぱり1つの弱点が。彼女は思わぬときに、周りが一瞬止まってしまうような天然ボケをしてくれました。そんな姉がとってもかわいくて大好きです。

◇徳永やよい（前会計・文）◇

☆部のお母さんです。くまさんみたいですよ。おだやかです。

☆徳永さんは部のお袋さんのような存在かな。まとまりのある4年目の中でもいい味だしてました。

これからも部にちよくちよく顔をだして、あたたかく見守っててください。

3年目

◇井口大地（北日幹事、副将・法）◇

部活に魂をすこしずつ切り売りしてきたが、どうやら売り切れだ。もう戻れないところまできてしまったのだなあ。

☆井口さんは狙った獲物は逃がさない。一升瓶を片手に「どういうこと？」と問われたら、もう蛇ににらまれた蛙。もう降参するしかない。

そうして1年目たちが討ち死にしていく。でも井口さんは下級生のことを思ってくれる頼りがいのある先輩だ。

そんな井口さんに乾杯！

◇畔柳宏司（主務・農）◇

いよいよ2000年を迎えた。言っておくが原稿の締切りオーバーではなく、これが4個目の自己紹介だ。

散々迷ったが、これで最後の自己紹介だと考えれば感無量だ。

新たな千年紀の訪れを感じながら今年を将来への展望を開く1年に位置付けた。そろそろ自分の進路を考えていこう。だが8月31日までは部活も手を抜かずにやろう、それにより9月からの大変身をより素敵にしてみせよう。

というわけでここからは蠟燭の最後の灯し火で大いに魅せてやろう。みんな、8月までの付き合いだけどどうかよろしく。

2000. 1. 12

☆兄が下級生のころはいろいろな伝説というか逸話を聞いたことがあるが、そんな兄も今や馬術部に欠かせぬ立派な馬乗りとして、主務として活躍なさっています。くろ兄、あと1年がんばってください。

☆兄は、喜怒哀楽がとてはつきりした人です。喜んでいるときは、誰彼かまわず話して回ります。怒っているときは、怖くてとて話しかけられません。悲しいときは見たことありませんが、楽しいときは周りを笑わせてくれます。

でもその目の奥で何を考えているのかは、わかりません。実は何も考えていないという意見もあります。でもとにかく、兄と話していると飽きません。

◇竹本和彰（後援会・理）◇

世紀末、恐怖の大王は来なかったけれど、

21世紀まで、あと、1年半。

卒部まで、あと、1年。

卒業まで・・・3、4年？

下手したら、半年でおしまい？！

☆LOVE²ですね・・・。

☆試行好きというよりもはや炎のチャレンジャー。後輩にはやさしいです。まさに兄はわが部のナンバーワンなのです。

◇長田拓郎（馬匹、車両・教育）◇

デジタルの示す文字があたしを疲れさせる

髪も濡れたまま 震えているのに

開け放たれた窓は何を期待しているの

受話器は沈黙を破ってはくれない

何度も空耳のベルがなり体を起こすけれど

無神経に朝は訪れる

時が暴走する

☆いつも何か考え、悩んでいます。

飲み会の度に、語りに入り先輩を閉口させ、後輩を、本人は気づいてないみたいだけど、ひどい言葉で泣かす。そしてその後も飲み続け必ず12時前にはダウン。次の日の朝（?昼?夕?）まで眠り続けるのです。

そんな彼だが、なぜか1年の女の子とは交流の機会が多く、しょっちゅう女の子に囲まれて話している。おそろべし、長田たくろう。

☆馬に乗るときはピミョーな感覚を持ち、飲むときはマクロな感覚を持つ方だなあ。体は大切にしましょう。

◇浜田浩一（会計・農）◇

あと1年。そろそろスパートかけるかな？

☆寡黙な兄は、コンパの最後まで残って話を聞いている人ですが、たまに鋭いツッコミをいれてくださいます。

☆昔は「え」とか「あ」とか「うん」ぐらいしか話してくれなかつた彼も最近は普通に話してくれます。でもその2倍ぐらいのスピードで愚痴の数もふえたという噂もあります。ぜんぜん怒ってないように見えてしょっちゅう怒っているという噂もあります。学校では大胆にも先生の目の前で最初から最後まで眠り続けているという噂もあります。さらには会計の金を横領して毎晩飲んでいるという噂まで。（ごめんなさいウソです）

いろいろと噂の絶えない彼ですが最後の一年間頑張ってください。

◇森田崇之（主将・経済）◇

小学校から高校までひたすら「卓球」というスポーツにたずさわってきた。競技会にも数多くでて、小学校の時は全国大会に出場することもできた。

しかし年を重ねていくごとに成績は下降線をたどる一方であった。どうして、そんな結果になったかということは、はっきりしている。それは自分が卓球というものを毎日やっていくごとに試合に勝つという“食欲さ”を失ってしまったからだだった。

人間、最初に触れたものに対し、興味というのを必ず感じるはずである。しかし、それを何回も触れることで、ある種の“マンネリ”というのを感じてしまう人も数多くいるが、僕の卓球に対する接し方もそんな感じであった気がする。中学校、高校では、ただ何も考えずに、ただ自分一人で考え、適当にやっていた。

そしてそんな経験を糧にして僕は馬術部という新たな門をくぐった。

☆え~~~~~い!!! (推定100ホーン)

☆森田兄迷言集

- ・あの馬、いつか肉にしてやる。←誰のことでしょう。
- ・この辺に肉がつくぞ。←ほっぺのあたりを指して余計なことを。
- ・いいのか、食べて? ←うっさい。
- ・就職先は馬肉屋。←えっ?!

☆試合では馬や鹿に乗って大暴れ。

そんな兄は実は料理好き。ブルーとスピをこよなく愛する。
最近の口癖は「しゃらくせえ」

2年目

◇小野元也(飼料・水産)◇

札幌に残留して、一人思うこと————

全ての気合は馬術部に!

留年したことにウジウジ悩んではいられない。

これは運命だったんだ。神が俺に馬術をやれと言ってるんだ。

いわば俺は馬術の申し子。

俺は宿命を全うする!

☆水産学部の2年目……。

水産生は小野兄に続け!!とまあ、これだけでも十分すばらしい小野兄ですが、ほかにもすばらしいところがたくさん。飲み会では早々と顔を赤くしてふにやふにや度がぐーんとアップ。話しやすいことこの上ない。でも、しめる時はしめる。思い出すは、なつかしの箱番講習会。普段の様子はどこへやら。新歓合宿が楽しみな人です。まあ、普段は、情けなくて、いや、親しみやすい2年目です。やっぱりすばらしい!

☆一度卒部した身ながら、とある事情でCome Back. 本人は馬術部のために自らの意志で残ったらしいが、真相はどうだか……。

それはさておき、とにかく復部した兄だが部のムードメーカーとして活躍中。練習中は真面目だが、練習が終わり部室にもどると、とてもおもしろい兄が復活。

ということで、今年も来年もよろしく。

◇川辺聡（前衛生、前作業・水産）◇

二年目になって

講義中に起きている時間が増えた。作業着と私服を完全に区別することに成功。歯を磨く回数、風呂の回数がUP。etc・・・

よく頑張ったなあ。あとは馬術で頑張るだけだ。

☆優しくて相談に乗ってくれる兄。

札幌にもっと遊びに来てください。

☆マイペースとかずうずうしいとか、頼りないところもあるが頑張ってくれ。

◇杉山賢治（副務・文）◇

二年目になって減ったもの。

それは、ドンパ（※1）と、笑顔と、貯金（※2）と、髪の毛（※3）。

1つ1つ、取り戻していこうと思う。

※1 17人→2人（ $\div 1$ ）

※2 ○△万円近く

※3 薄くなったという意味ではない。

☆おもしろい兄。彼に用もなく名前を呼ばれると、ビクッとします。

☆スズと名コンビを組む。一緒に川で泳いだこともあったっけ。

◇山本裕己（作業・獣医）◇

周りに流されず、マイペースでがんばります。

☆無口。でもえがおはpretty。

ステキな人です。ジャンパーのフードをかぶると・・・。恐ろしい。

☆普段は無口な方ですが後輩には良く教えてくれます。まさに兄はわが部のナンバーワンなのです。

1年目

◇犬飼尚志（文化、企画・工）◇

自宅生。家は歩いて5分。しかし貧乏。昼は300円ですます。

夜はまたカップ麺だったりして・・・。ふう・・・教科書ぐらい買って欲しいな・・・。

☆気は優しくて力持ち?! 将来が楽しみだ。

☆一見クールでカッコいい彼。でも一度その笑いを聞くと・・・。

イメージが変わります。

☆酔うと目がいつちゃってるよー。

☆目つきがキツイ。でも時々ふとかわいらしいポーズでたたずんでいる。

◇岩波由紀（記録・水産）◇

保育園の頃は花屋になりたかった。
中学生の頃は先生になりたかった。
高校生の頃は医者か看護婦になりたかった。
今は・・・えらいひとにでもなろうかな。

☆・彼女が入部したときの第一印象は、“こいつは何かやらかすな”という感じだった。そしてその直感は見事に的中してしまうことになった！ここに彼女の馬術部での事件ファイルを提示する。

①逆セクハラ

今までの馬術部の長年の伝統として、“女が部室に泊まるのは厳禁”という掟があったのだが、彼女はそれをいとも簡単に破ってしまった。

②笑いすぎ

いつもほかの女子部員と二人でわけもなく笑っているのである。たいした話のネタでもないのに。そんな姿を見て部員全員をなごましてくれる彼女にとても感謝しています。
・・・というのほうそ。

☆彼女と接するとなぜか疲れる。思い浮かべるだけでも疲れる。彼女はぜんぜん疲れてなさそうだけど。でも接しているときは、まあ、嫌気はしないよ。俺と共に函館へ行くのは許さないぞ。ちゃんと俺のように3年までやってから来いよ。この時こそともに北水を立て直そう。

☆星に帰りたまえ。地球は一杯一杯だ。

☆飛んでいる。やっぱ札幌に残るんだろ？

◇大久保和馬（部報・獣医）◇

ボク大久保。下から読んでも・・・

☆ティッシュのいるときは彼に。絶対持ってます。

☆「いやー、〇〇なんですよー。」が口癖の大久保。意外と運動神経はいいみたいだけど、いつ見ても間延びしたような印象を受けるのはなぜ？

ここまでマイペースだと感心しちゃうね。

どんな上級性になるのか楽しみ、楽しみ。

☆けっこう君はいいぞ。でももうちょっと眉毛上げとこうか。

☆目がたれてて自信なさげ。ローズとは仲悪め。はるばる石狩から大変だね。

◇奥村嘉子（薬品・獣医）◇

馬術部に入って変わったこと。

- ・早起きができるようになった。
- ・ごはんをたくさん食べるようになった。
- ・授業中寝るようになった。
- ・勉強しなくなった。

- ・言葉使いが汚くなった。
・・・おかあさんごめんね。

☆知性の輝きが瞳に光る唯一の馬術部員。競馬場で二度、男の子と間違われたらしいが、気にせずガンバレ、嘉子。

☆彼女は気がきくし、頭も良いし、サブに持つと非常に心強い。彼女は性格は良いし、女の子らしいし、とてもかわいい妹だ。でも、何かその中にゴツゴツしたものを時折感じるのは俺だけだろうか。いや違う。だからこそ今日まで彼女は部にいるのだ。

☆ってゆうか、時々突っ走り過ぎ。ホーホー。

☆東京のお嬢さまってカンジだね。しっかりしてて頼りがいがあるね。

◇角田和歌子（部報・農）◇

うるさいです。いつも、さわいでいます。
風邪ひいても、ノドが痛くても、しゃべってます。
すずLOVERです。すずのためにもしゃべります。

☆やめちゃいそうNo. 1だと、思っていました。
ゴメンネ。

☆最初は上級性かと思ってしまった。もういいでしょう？まだまだこれからだよ。

☆はじめて会ったときの印象は”大人しそう”でした。

今は・・・”強そう”です。僕は見たことが無いのですが、実際強いらしいです。彼女が主将になっても思ったりした人、何人かいるはずですよ。

◇加藤幸作（作業・理）◇

最初は馬術部はもっとエレガンスな部だと思っていた。でも入ってみればやけに土臭い部だった。新歓の頃から少しずつ慣らされて、気がつけば役職、作業。馬運車の中でも寝転がれるし、心身共に強化された。僕はこれからどこまでいってしまうのか。でも馬のために頑張るぞ。

☆まず、名字が23画だね。うーん、これは顔の筋肉がゆるみがちの人だね。いつも笑っているんじゃないの。

名前が15画の人はスーツが似合わないんだよね。もしかするとソッチの人と間違えられるんじゃない？気をつけろよ。

「加藤」という人はみんなにかわいがられるけど、ちょっと押しが弱いんだよね。周りに流されちゃだめだよ。

名前は最高だね。君さえ頑張れば、あんた一人じゃなくて、みんなに幸せを作れると思うよ。

☆カレは私のお気に入り。なぜなら笑顔がとってもcuteだから。

いつか馬場でかなり思いっきりスクワットしてたよね。アレ、まだ流行ってんの？（クスッ）

とにかく、北日では張り詰めた神経をその天然ボケで解きほぐしてくれてアリガトウ。ていうか、本当に頑張ってくれてアリガトウ。

数年後、東京でキミに声援を送ったりなんかするのも、私の夢だったりします。

☆人は皆彼のことをヤクザっぽいという。ちょっとスーツのネクタイが金色なだけなのに。

◇国井千恵子（馬備・獣医）◇

自分がどんな人間なのか、よくわからない。
自分でも何を考えてるのか、何をしたいのか、わからない。
でも、何かしたい。
私はこんな人間です。

☆酒豪。酒を持つと上級生もバツバツと倒されていく。いつかあなたを超えてみせる。
☆国井ちゃんは、てっぺんからつまさきまで同一色なので、驚きも発見もあんまり見つけれないんだよねー。
☆3人兄弟の末っ子。でも、姉さんばいところもあり、末っばいところももちろんある。私は彼女を副将にしたい。
☆国井は強い。
きつとふにやふにやした男たちを蹴散らして
何かでつかいことをやってくれるだろう。
将来、どうなっているのか楽しみにしています。

◇高野慎哉（文化、企画・工）◇

普段の練習でも寝坊などが決して少なくない僕ですが、他の奴には負けたくないという気持ちは十分。まだまだたよんないと思いますが、成長を見守ってください。がんばります。

☆「シュー」、「マジボン？」など、数々の力の抜ける台詞を連発する。一年の間じゃ、優しいとかで評判が良いらしい。一見、フニャフニャしているようだが実はしっかりしている・・・かもしれない。
☆彼の眼鏡はいつも片方が光っている。その下の瞳はどこか不安そう。生まれも育ちも関西だけど、僕ちゃんちょっとエセっばい。ひえー。
☆彼は、一見頼りなさそうに見えますが・・・その通りです。君は、気合論、根性論をもっと学ぶ必要があるでしょう。頑張ってください。

◇佐藤佑（薬品・獣医）◇

だったの何が何だか分からないままだった。しかしその瞬間、真由美は全てを悟ったのだった。すなわち、形骸化された現象を心理学的観点のレベルで分析すればその容易さは自明の真事なのだろう。秀雄はとっさに「メルヴェイユ」とつぶやいた。そして二人はやさしい光に包まれ・・・
・・・はっ。しまった。また妄想しちゃった。最近作業中にする妄想が過ぎるので控えようと思います。

☆髪の毛がむさ苦しい。顔も。学ラン着てる。3浪ぐらいしてそうだけど、現役。
☆もろ援団系かと思ったら、ただのいやらしい奴だった。

◇新宅孝昭（副務・法）◇

部に入っただいぶ時が経つ。朝起きると、少し寝たいという気が毎日してしまう。けど、部に行けばそこはそこ。馬に乗るのがいい気持ちにさせてくれる。

☆やめちゃいそうNo. 2だと思ってました。

ゴメンネ。

☆彼の周りで起こる出来事は全て大事件かと思わせるような話しぶりに、初めは何だ何だと耳を傾けていた私ですが、最初ようやくそのオチのないはなしをサラリと流せるようになりました。はて末はプロレスの解説者かといかに期待される彼ですが、その前に馬術部での活躍も期待しているよ。

◇高崎昭吾（衛生・農）◇

何だか今日は疲れたので自己紹介はこれで終わりです。

☆彼は全体的にやる気がない。まず「言葉」にやる気が、感じられない。「それって、・・・くさくない？」と、平然な顔で言いきってしまうところは、わたくしの美的センスをズタズタにしてしまう。あと、部活にもあまり来ない。“こいつはすぐやめるな”とよく思うのであるが、練習に来ると、意外に真剣な表情を見せる。しかし、彼は「正反撞」をしているときにだけやる気の片鱗を見せることができる。彼は反撞を抜くとき、毎回、あごを天に向かって突き出す。まるで、あごの細胞を天に召しているかのようだ。そんな姿を見るたびに、“いつかこいつは大物になってくれるはず”と思わずにはいられなくなるのは俺だけなのか？☆あまりしゃべる方ではない。何があっても動じること無く、心の中で“余裕”とつぶやいてそう。大物なのか？とりあえず未知数。

◇堀内太郎（馬備・農）◇

自分の下手さに気付きながらも今日はきっと調子が悪かったんだと自分をごまかしながら頑張る毎日。馬術部ってつらいなあ。

☆もう、すさんじゃってるね。

☆ねえ、何を憂いているの？

◇山口剛司（飼料・理）◇

めんどくさいことはきらいなのでパス。

☆夜、山口に会いたいなら、部室を見て、いなければ、他の1年の家です。自分の家には絶対いません。

昼に会いたいなら、やっぱり部室を見て、いなければ・・・

学校なんかにはいません。長岡さんのところですよ。

☆いつも鼻声の彼。入部当初、上級生に「おまえは汚くなるぞ・・・」といわれ、その期待どおりに馬術部らしくなったね。

ここ数年馬術部で増えつつある、背骨の軟化した男子の一人でもある山口。時にはピシッとしたところも見せてよ。

◇吉川幸江（後援会・文）◇

馬が好きです。

作業も多分好きです。

乗ることは大好きです。
みんなといることも大好きです。
がんばるぞ！

☆よく働き、よく笑いよくつぶれている女の子。

すべてにおいて一人で何人分もがんばっています。

本当に健気だなー。

でもこれだけみんなに寝顔を見られている子も少ないよね・・・。

☆酒を飲むと変身する。超音波を発信しまくり、周りの人たちをめろめろにし、あげくの果てに力つきて動かなくなり、かといってほっとくと何するか分からないという恐ろしい生き物である。

だが、普段の彼女は、人一倍元気がよくて見ている気持ちがいい。そのガッツを大切に、これからも頑張ってください。

チキンをどうぞ

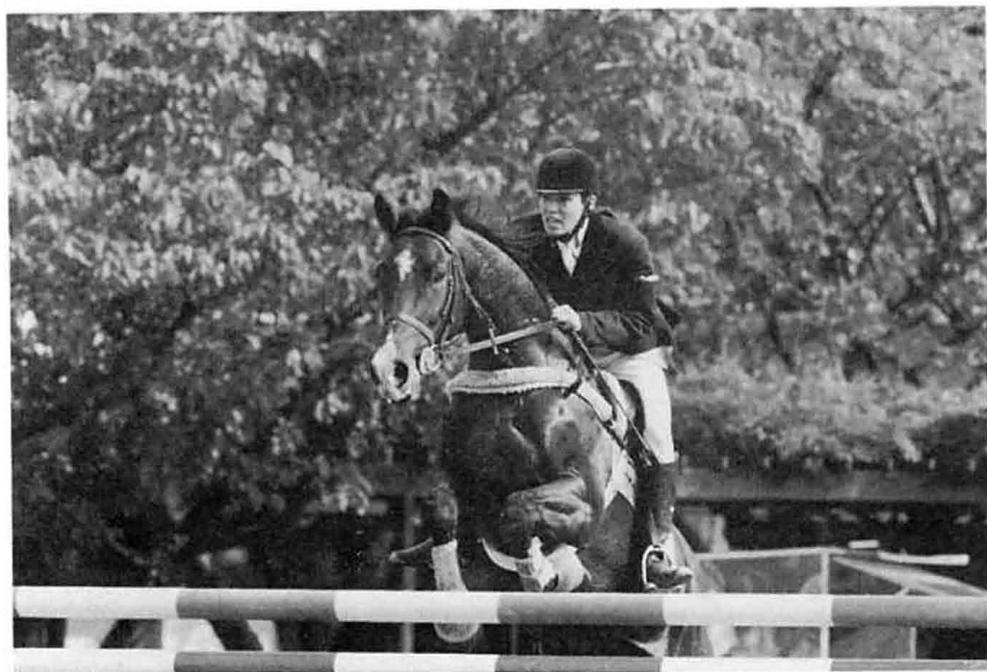
モモセ

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470



大崎兄と北蘭号



尾崎兄と北旋風号



金丸兄と北牙号



森田兄と北祥号



川崎兄と北蒼号

平沢ライディングガーデン

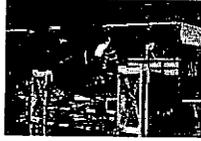
楽しく乗るためには、最初の基本が大切。初心者丁寧に指導しています。いつも明るい雰囲気乗馬が楽しめます。ポニーからクォーターホースまで揃っているの、ご家族それぞれの馬に乗れます。

- 営業時間：8時～19時
 定休日：火曜日
 入会金：正会員20万円、短期1年会員5万円、ポニー会員10万円他
 会費：(年)6万円、ポニー会員3万6千円
 騎乗料：会員3千円、ポニー会員3200円(ポニー会員は指導料込み)
 乗馬教室：体験乗馬1回5千円(指導料、騎乗料、貸用具などを含む)
 レッスン料：初心者1500円
 預託馬費用：(月)10～12万円)
 外乗：月1回美保海岸で騎乗会、会員1万円
 馬の特徴：初心者から競技馬まで25頭
 宿泊施設：スポーツホテルと提携、1泊6500円
 設備：クラブハウス、駐車場、ナイトー設備、更衣室、ロッカー、送迎バス
 馬場面積：角馬場、20×60m1面、20×20m1面、丸馬場2面
 設立年月日：平成4年4月新装オープン
 代表者：岩本輝久
 管理責任者：岩本まこと

〒422-8013 静岡県静岡市古宿717-1
 ☎054-262-5470
 JR草薙駅より車で5分



ライディングエリア



HORSE TREKKING



馬車

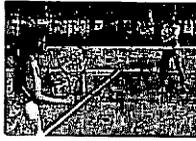


観光乗馬(ひき馬)

馬を知る、馬に親しむ。
初心者から上級者までさまざまな形で乗馬を楽しめる施設と環境が整えられています。
●乗馬コース(ライディングエリア、インドア乗馬場、林間コース) ●ひき馬 ●観光乗馬 ●ポニー広場



テニス

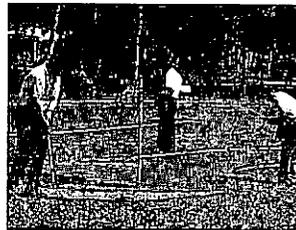


RECREATION

楽しさ爽快、汗が光るワンダーランド
ノーザンホースパークでは乗馬のほかにもいろいろなスポーツや遊びが楽しめます。
●パークゴルフ ●ターゲットバードゴルフ ●バターゴルフ ●テニスコート ●子供広場 ●緑の広場

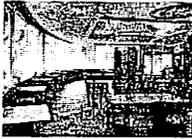


サイクリング

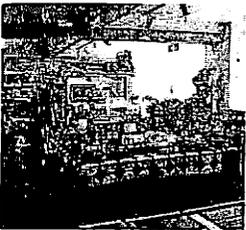


バターゴルフ

TASTE



カフェテリア「シャンティ」



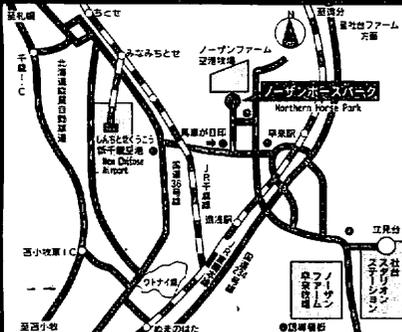
売店



テラス

グルメとショッピング。
コミュニティランド。
馬とのふれあいの後は、グルメとショッピングで喉の思い出づくり。お食事はお好みに合わせて、ご予約をお取りいただけます。
●レストラン「ノーザンテースト」 ●カフェテリア「シャンティ」 ●バーベキュー ●インドア乗馬場 ●ポニー広場 ●売店

人と、馬と、自然が出会う空間。



新千歳空港より車で15分

ノーザンホースパーク

〒059-1361 北海道苫小牧市美沢114-7
TEL.0144-58-2116代 FAX.0144-58-2377
開園時間(夏期間) 9:00~19:30

※新千歳空港よりノーザンホースパークへは、毎日11時30分、13時30分、15時30分、17時30分のバスが運行されています。



有限会社

ビッグオート

Big

マイカーリース (これからは乗る時代)

- 安心点検 (6ヶ月点検)
- 車検整備
- 一般整備
- 電波コントロール、エンジンスタートシステムES-89 販売取付け代理店
- 板金塗装
- 各社損害保険代理店
- 自動車販売(新・中)

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

TEL 886-2041

FAX 886-2042

MEIJI
キャンディー
劇場



「喰い込める腹づくり」のスタートは、早期の穀物摂取が最大のキーポイント。
だから、「嗜好性がバツグンに良い」キャンディー-スターターにおまかせ下さい。

表示成分

粗たん白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	カルシウム	リン	DCP	TDN
22.0以上	2.0以上	8.0以下	12.0以下	0.60以上	0.40以上	20.0以上	75.0以上

お問い合わせは...

明治飼糧株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-20-4

TEL 0120-49-9141

Art Hair TEAZ

パーマでもカットでも
十分なカウンセリングから始まる
ヘアスタイル選びができます。

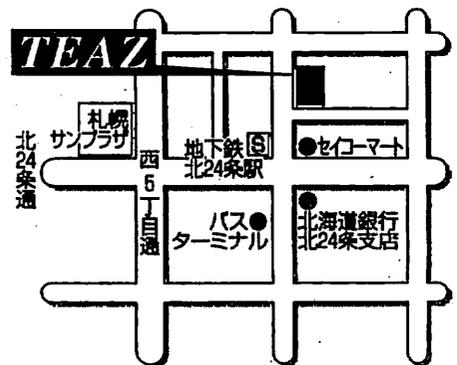


PRICE LIST

- カット (シャンプー・ブロー込み) ¥3500
高校生以下 ¥2500
- パーマ (カット・シャンプー・ブロー込み) ¥7000~
- ストレートパーマ (カット・シャンプー・ブロー込み) ¥7000~
- カラー (シャンプー・ブロー込み) ¥5000~

本紙持参で新規のお客様にかぎり全メニュー30%OFF
2回目以降のお客様全メニュー10%OFF

予約優先



Art Hair
TEAZ 美容室 ティーズ

受付時間 パーマAM10:00~PM7:00
カットAM10:00~PM8:00

札幌市北区北24条西3丁目2-14 高松ビル
PHONE: 011-736-5800

編集後記

代替わりの9月からはや半年、カレンダーも3月になってしまいました。なんとか今年度中には出したいと思い、今になってバタバタと焦っています。もっと早くから準備できたものはすべきだったと後悔の念が尽きず、時間ばかりが過ぎていったように感じてなりません。徐々に部員総会も気嫌いするようになり、毎月のようにたたかれて、いい加減何としても早く出して部員総会をいい気分で迎えたい、部報から解放されたいという思いでいっぱいです。

原稿の編集においては単調な作りで、いまいち原稿寄贈者の方々にとってはイメージに沿わないものになってしまったかもしれませんが、内容はとてもいいものですので楽しんでいただけたと思います。編集時に常に心がけたことは「部報は現役のみのためにあるのではなく、むしろ多くのOBの方々が興味を持って楽しめるものでなければならない。」ということです。果たして、そのようにこの部報ができているかどうかはもはや私たちの知るところではありませんが、心をこめて、多くのOBの方々、その他外部の方々に読んでいただけた、ということ意識して作りました。また、もしお時間がおありでしたらこれを始めとする部報に対するご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いですし、今後の部報発行の参考にもなると思います。

そして、この部報発行に際し、原稿をお寄せいただいた、市川先生、大場さん、高野さん、山川さんを始めとするOBの方々や、広告主となつていただいた多くの馬術部関係者、団体の皆さん、編集作業、広告集め、原稿執筆をしてくれた現役部員の皆さん、部報発行に関して無知な私たちに数多くのアドバイスをしてくださった過去2年間の部報担当の2人の兄、本当にありがとうございました。

部報編集担当者 角田和歌子
大久保和馬

平成12年3月発行

発行者 北海道大学馬術部
札幌市北区北23条西12丁目 北海道大学馬術部厩舎
011-737-1626

札幌市北区北17条西7丁目 北大体育会内
011-716-2111

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

